

地域福祉の推進に関する 市民の意識調査

調査報告書



平成 26 年 12 月

社会福祉法人

宗像市社会福祉協議会

目 次

第Ⅰ部 調査の概要	3
1. 調査目的	
2. 調査対象者	
3. 調査実施方法	
4. 調査期間	
5. 調査機関	
6. その他	
第Ⅱ部 調査結果の概要	7
1. 回答者自身について	9
問1. 性別	9
問2. 年齢	10
問3. 居住地区	11
問4. 職業	12
問5. 住居形態	14
問6. 居住年数	15
問7. 他地域での生活経験	16
問7-1. 直前居住地域	17
問7-2. 転入理由	19
問8. 居住継続意向	20
問8-1. 転出希望理由	21
問9. 世帯状況	22
問9-1. 18歳未満児童数	23
問10. 65歳以上高齢者数	25
問11. 要介護者	27
問12. 収入源	28
問13. 困りごと・不安	29
問13-1. 困りごと・不安の内容	30
2. 生計中心者について	32
問14. 生計中心者	32

問 1 4 - 1. 生計中心者の年齢と続柄	33
問 1 4 - 2. 生計中心者の職業	34
問 1 5. 生計中心者の職場のある地域	35
問 1 6. 通勤手段	36
問 1 7. 無職理由	37
問 1 8. 生計中心者の健康状態	38
3. 地域での生活について	39
問 1 9. 近所とのつきあいの程度	39
問 2 0. 近所の人を手伝った経験	41
問 2 1. 地域で何とかしなければならないこと	43
問 2 1 - 1. 誰が何とかするべきか	45
問 2 2. 参加している地域活動	46
問 2 2 - 1. 地域活動に参加してよかったこと	48
問 2 2 - 2. 地域活動の拠点	49
問 2 2 - 3. 地域活動をする上で気になること	50
問 2 3. 福祉に関する情報源	51
問 2 4. 小地域福祉認知度	54
問 2 5. 介護や福祉サービス利用の相談	56
問 2 6. 宗像市社会福祉協議会認知度	58
問 2 6 - 1. 宗像市社会福祉協議会主催の活動の認知度	60
問 2 7. 宗像市社会福祉協議会に対しての意見	63
第Ⅲ部 考察	70
1. 今後の居住意向	72
2. 家族の姿	73
3. 職業、生計維持の方法	74
4. 不安・困りごと	75
5. 地域社会とのかかわり	76
6. 社会資源の認知度	77
7. 宗像市社会福祉協議会について	78

第 I 部 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、平成 27 年度から開始される第四次地域福祉活動計画（以下『第四次計画』という。）を策定するにあたり、市民の地域福祉の推進に関する意識や、宗像市社会福祉協議会の事業への評価について基礎資料を得るために実施した。

2. 調査対象者

宗像市個人情報保護審議会の了解を得て、宗像市住民基本台帳から地区別・男女別・年齢別に割合を考慮し、無作為に 2,000 人を選んだ。

3. 調査実施方法

- ①宗像市健康福祉部保健福祉政策課と協働して調査を実施した。
- ②調査の集計・分析は国立大学法人福岡教育大学に委託した。
- ③調査票の配布・回収は、郵送によって行った。

4. 調査期間

平成 26 年 6 月 1 日より平成 26 年 7 月 22 日とし、7 月末をもって調査票回収を完了した。

5. 調査機関

調査の主体：社会福祉法人宗像市社会福祉協議会・宗像市健康福祉部保健福祉政策課
調査の集計・分析：福岡教育大学教育学部 西崎 緑

6. その他

調査票配布数 2,000 部 有効回答数 859 部 （有効回答率 42.9%）

第Ⅱ部 調査結果の概要

1. 回答者自身について

問1. 性別

問1 あなたの性別について、あてはまるもの一つに○をつけてください。

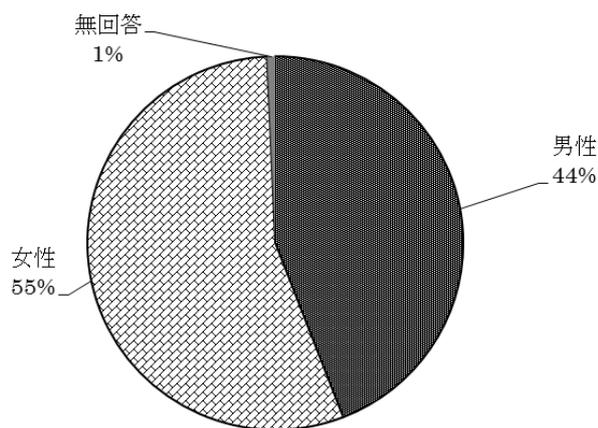
①男性	②女性
-----	-----

回答者の性別を見ると、ほぼ半分に分かれると言ってもよいが、男 379 (44%)、女性 474 (55%) と女性のほうがやや多くなっている。

表1-1 男女別人数・割合

男	379 (44%)
女	474 (55%)
無回答	6 (1%)
総計	859 (100%)

図1-1 男女別割合



問2. 年齢

問2 あなたの年齢について、あてはまるもの一つに○をつけてください。

- | | | | | |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| ①20～29歳 | ②30～39歳 | ③40～49歳 | ④50～59歳 | ⑤60～64歳 |
| ⑥65～74歳 | ⑦75歳以上 | | | |

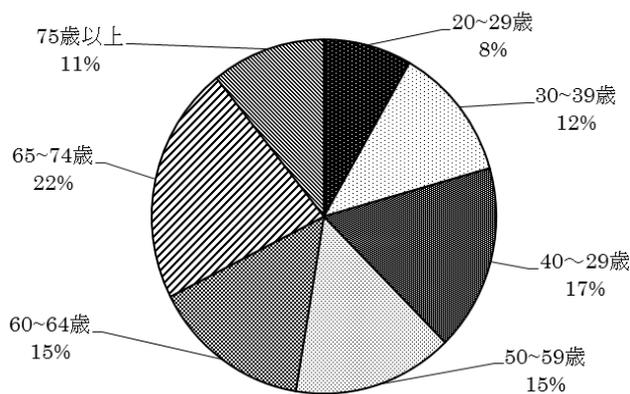
回答者を年齢別に見ると、合わせて33パーセント（約3分の1）の回答が高齢者からのものであり、その内訳は、65～74歳の前期高齢者が22パーセント、75歳以上の後期高齢者が11パーセントで合わせて33パーセントとなっている。また50歳代の回答が15パーセント、40～49歳の回答が17パーセントとなっている。したがって本調査の意見は、中高年から高齢者の意見が多く反映されているといえる。

平成26年4月1日現在の宗像市全体の人口をみると、全人口96,473人に対して65歳以上人口が24,282人、高齢化率（人口全体に占める65歳以上の人口）は、25.2パーセントである。そのため、本調査の意見では、全体よりもやや若年者の意見が反映されにくくなっている。

表2-1 年齢別人数・割合

20～29歳	71 (8%)
30～39歳	106 (12%)
40～49歳	146 (17%)
50～59歳	129 (15%)
60～64歳	128 (15%)
65～74歳	187 (22%)
75歳以上	92 (11%)
総計	859 (100%)

図2 年齢別割合



問3. 地区

問3 あなたがお住まいの地区について、あてはまるもの一つに○をつけてください。

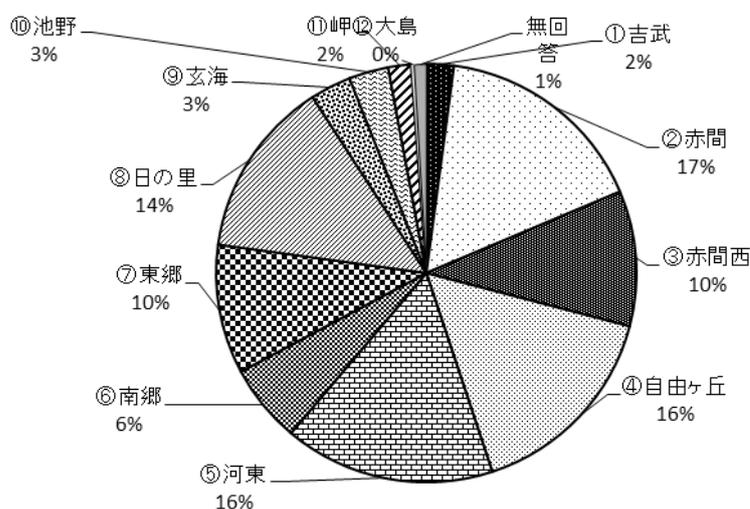
- | | | | | | | |
|------|-----|------|-------|-----|-----|-----|
| ①吉武 | ②赤間 | ③赤間西 | ④自由ヶ丘 | ⑤河東 | ⑥南郷 | ⑦東郷 |
| ⑧日の里 | ⑨玄海 | ⑩池野 | ⑪岬 | ⑫大島 | | |

回答者を地区別に見ると、赤間が最も多く142人（17%）、次いで河東139人（16%）、自由ヶ丘136人（16%）、日の里118人（14%）、赤間西90人（10%）となっている。旧玄海地区の玄海、池野、岬を合わせると68人（8%）となっている。以上の地区別回答者数から、本調査の意見は、宗像市の住宅地（開発団地）を含む地域の住民の意見が最も大きく反映されていることを考慮する必要がある。

表3-1 地区別人数

①吉武	18
②赤間	142
③赤間西	90
④自由ヶ丘	136
⑤河東	139
⑥南郷	52
⑦東郷	86
⑧日の里	118
⑨玄海	27
⑩池野	26
⑪岬	15
⑫大島	2
⑬未記入	8
合計	859

図3-1 地区別割合



問4. 職業

問4 あなたのご職業について、あてはまるもの一つに○をつけてください。

①会社員・公務員等	②自営業	③パート・アルバイト
④農林漁業	⑤無職	⑥学生
⑦その他 ()		

職業は、無職が364人(42%)となっており、約4割の人が現在仕事をしていない。これは、主として65歳以上の高齢者が回答者に多いことによる。

現在働いている人では、会社員・公務員が261人(30%)、パート・アルバイトが121人(14%)となっており、常勤、非常勤の被用者を合わせると全体の約4割強の人が、被用者である。これは、回答者の居住地が、住宅地(開発団地)が多いことを反映している。

表4-1 職業

会社員	261 (30%)
自営業	52 (6%)
パート	121 (14%)
農林漁業	13 (2%)
無職	364 (42%)
学生	14 (2%)
その他	25 (3%)
無回答	9 (1%)
総計	859 (100%)

その他の内訳

その他	7	僧侶	1
看護師	2	牧師	1
病院職員	2	短大教授	1
介護職	2	大工	1
保育士	2	ホステス	1
契約社員	2	派遣社員	1
医師	1		
福祉関係	1		

図4-1 職業

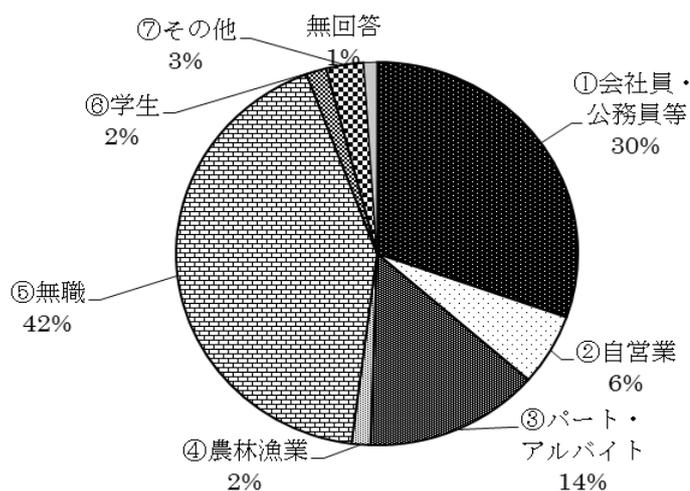
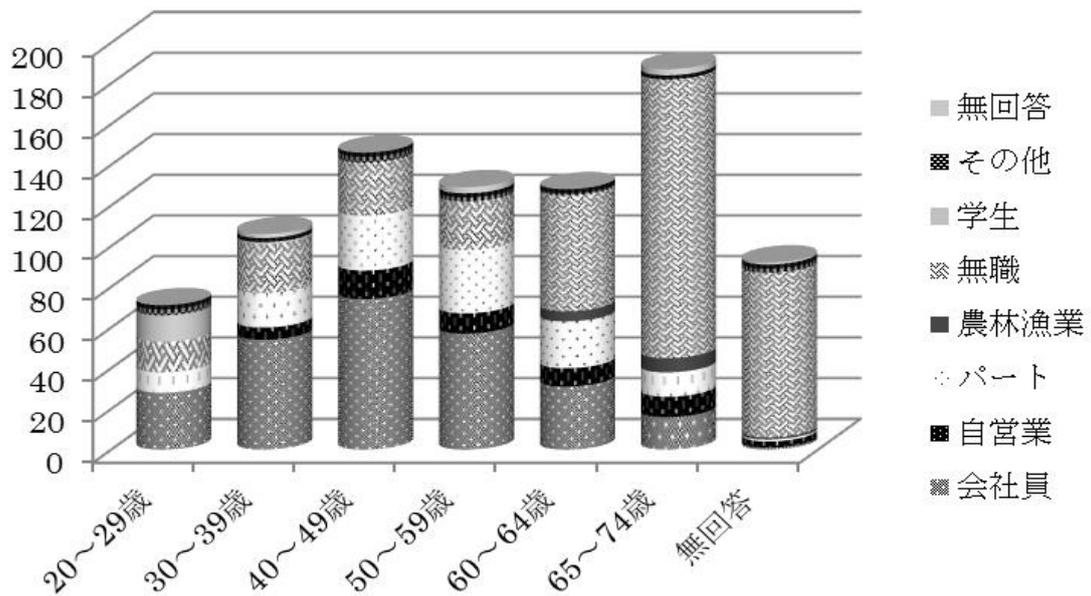


表 4 - 2 年齢別職業構成

	会社員	自営業	パート	農林漁業	無職	学生	その他	無回答	合計
20～29 歳	28	0	10	0	15	13	5	0	71
30～39 歳	54	6	17	0	24	1	2	2	106
40～49 歳	74	14	27	0	26	0	5	0	146
50～59 歳	57	10	31	0	24	0	4	3	129
60～64 歳	31	9	23	5	57	0	3	0	128
65～74 歳	16	10	12	7	137	0	2	3	187
無回答	1	3	1	1	81	0	4	1	92
合計	261	52	121	13	364	14	25	9	859

図 4 - 2 年齢別職業構成



問5. 住居の形態

問5 現在お住まいの住居の形態について、あてはまるもの一つに○をつけてください。

①一戸建ての持ち家 ②分譲マンション ③公営の賃貸住宅 ④民間の賃貸住宅
⑤借家 ⑥社宅・寮 ⑧その他 ()

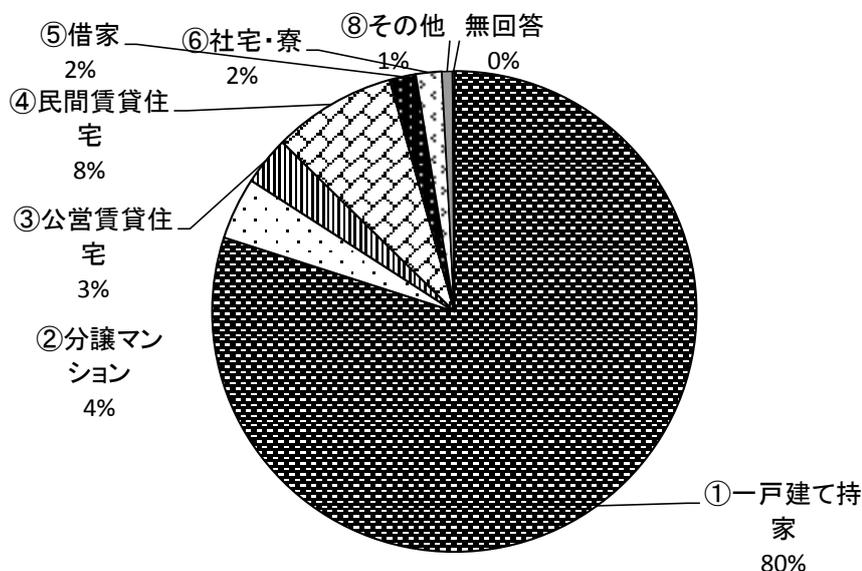
住居の形態については、圧倒的に一戸建てが多く、687人(80%)の回答者が一戸建てに住んでいる。一戸建ての持ち家の居住者が多いということは、回答者が今後も宗像市に住み続ける定住者であることを示している。

表5-1 住居の形態

一戸建て持ち家	687 (80%)
分譲マンション	36 (4%)
公営の賃貸住宅	28 (3%)
民間の賃貸住宅	71 (8%)
借家	15 (2%)
社宅・寮	15 (2%)
その他	6 (1%)
無回答	1 (0%)
総計	859 (100%)

その他の内訳	
一戸建て家族所有	1人
公用の家	1人
グループホーム	1人
寺	1人
牧師館	1人
その他	1人

図5-1 住居の形態



問6. 居住年数

 問6 あなたは宗像市にお住まいになって何年ですか（旧宗像市・旧玄海町・旧大島村としての期間を含みます）。あてはまるもの一つに○をつけてください。

- | | | | |
|-----------|----------|-----------|-----------|
| ①5年未満 | ②5～10年未満 | ③10～20年未満 | ④20～30年未満 |
| ⑤30～40年未満 | ⑥40年以上 | | |

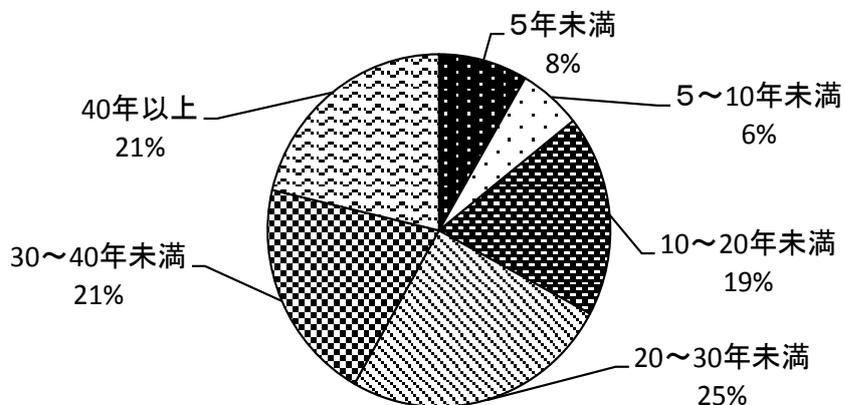
居住年数を見ると、長期居住者が多い。

20年以上30年未満宗像市に住んでいる人が最も多く218人（25%）で約4分の1いる。さらに20年以上居住している人の合計が580人（67%）となり、回答者の3分の2が長期居住者である。また、一戸建て持ち家の居住者が多いことともやや関連するが、8割以上の人が10年以上居住者である。

表6-1 居住年数

5年未満	72 (8%)
5年以上10年未満	51 (6%)
10年以上20年未満	159 (19%)
20年以上30年未満	218 (25%)
30年以上40年未満	176 (21%)
40年以上	186 (21%)
合計	859 (100%)

図6-1 居住年数



問7. 他地域での生活経験

問7 あなたは宗像市にお住まいになる前、1年以上他の地域で生活されていた経験がありますか。あてはまるもの一つに○をつけてください。

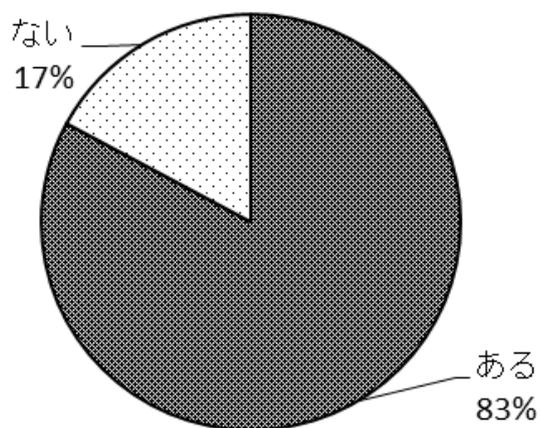
①ある ②ない

他地域で1年以上生活した経験は、711人（83%）が「ある」と回答している。宗像生まれで他の地域に出ていた人もいるが、大多数は、他の地域から転入してきた人である。

表7-1 他地域での生活経験

ある	711(83%)
ない	147(17%)
無回答	1(0%)
総計	859(100%)

図7-1 他地域での生活経験



問 7-1. 直前居住地

問 7-1 宗像市へ移り住む直前の地域について、あてはまるもの一つに○をつけてください。

①宗像市に隣接する自治体	②福岡市内	③北九州市内
④県内(市町村名:)	⑤県外(都道府県名:)	

直前の居住地では、北九州市が最も多く、26 パーセントの人が北九州市内から転入してきた人である。次いで県外からの転入者が 24 パーセント、福岡市よりの転入者 23 パーセントとなっている。

表 7-1-1 直前居住地

宗像隣接自治体	69 (10%)
福岡市内	166 (23%)
北九州市内	182 (26%)
県内	120 (17%)
県外	173 (24%)
無回答	3 (0%)
小計	713(100%)

図 7-1-1 直前居住地

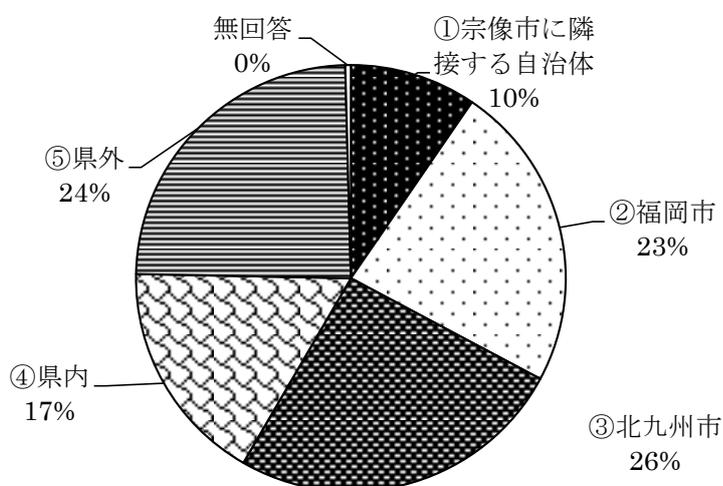


表 7-1-2 ④県内の市町村

古賀市	24	柳川市	4	篠栗町	2	志免町	1
飯塚市	13	遠賀町	3	水巻町	2	糸島市	1
直方市	10	太宰府市	3	大牟田市	2	小郡市	1
久留米市	6	大野城市	3	筑後市	2	小竹町	1
新宮町	6	筑紫野市	3	宇美町	1	大川市	1
春日市	4	芦屋町	2	嘉麻市	1	大和町	1
中間市	4	桂川町	2	久山町	1	その他県内	14

図 7-1-2 ④県内の市町村

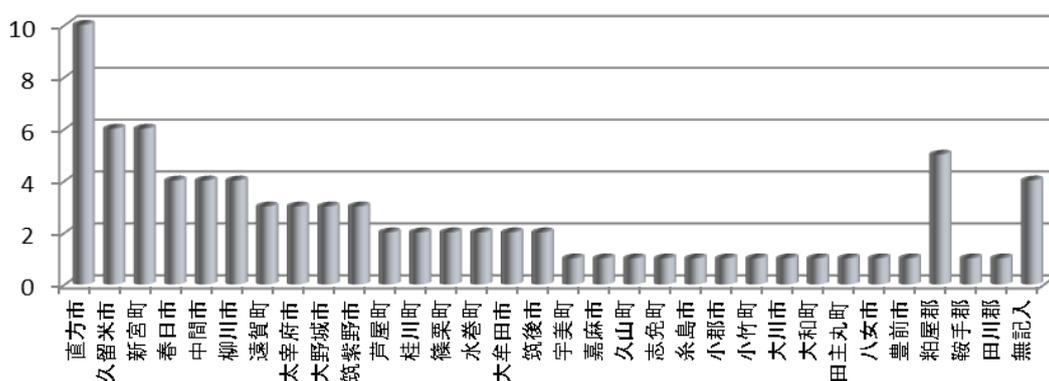
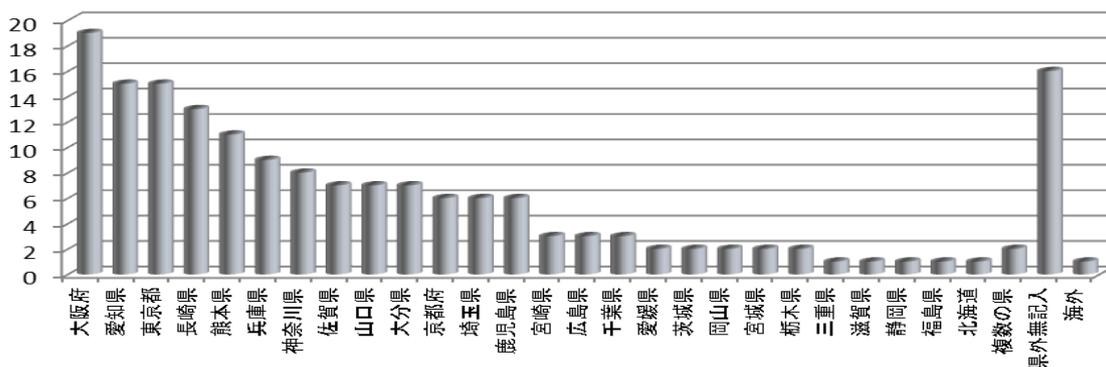


表 7-1-3 ⑤県外

大阪府	19	佐賀県	7	千葉県	3	滋賀県	1
愛知県	15	山口県	7	愛媛県	2	静岡県	1
東京都	15	京都府	6	茨城県	2	福島県	1
長崎県	13	埼玉県	6	岡山県	2	北海道	1
熊本県	11	鹿児島県	6	宮城県	2	複数の県	2
兵庫県	9	宮崎県	3	栃木県	2	無記入	16
神奈川県	8	広島県	3	三重県	1	海外	1

図 7-1-3 ⑤県外



問 7-2. 転入理由

 問 7-2 宗像市へ移り住まれた理由について、あてはまるもの一つに○をつけてください。

- | | | | |
|-----------|-----------|------------|------------|
| ①通勤のため | ②転勤のため | ③結婚のため | ④住宅を購入したため |
| ⑤通学のため | ⑥家族の介護のため | ⑦生活環境が良いため | |
| ⑧親が移転したため | ⑨その他 () | | |

転入理由としては、住宅購入が圧倒的に多く、約4割弱の人が住宅を理由に挙げている。

表 7-2-1 転入理由

①通勤	42 (6%)
②転勤	93 (13%)
③結婚	117 (17%)
④住宅購入	261 (37%)
⑤通学	3 (0%)
⑥家族の介護	20 (3%)
⑦生活環境	51 (7%)
⑧親が移転	59 (8%)
⑨その他	66 (9%)
合計	712 (100%)

図 7-2-1 転入理由

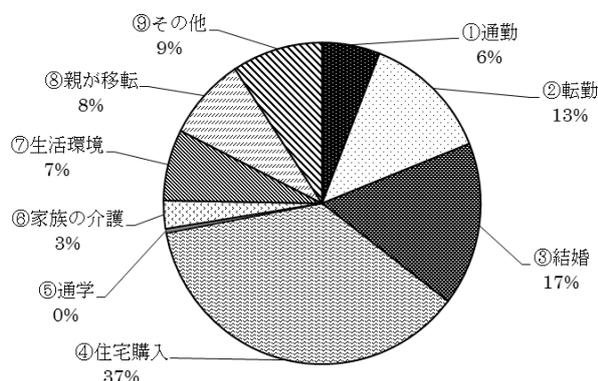


表 7-2-2 ⑨その他の内訳

自宅・実家に帰る	12
子の手伝い・子の近所に住む	7
親と同居・親の近所に住む	5
転職	5
家を継ぐ	3
子育ての事情	3
事業の事情	3
会社の都合	2
家族所有の家があった	2
社宅入居	2
退職	2
その他	18

*表 7-2-2 その他の内訳のうちのその他 (18人) の内容としては、「離婚」「両方の実家の中間」「便利」「従来より所有していた土地に住宅を建設」「家族の将来を考慮して」「家賃が安く良い物件があった」「市内の寺にて出家」などが挙がっていた。

問8. 居住意向

 問8 あなたは今後も宗像市に住み続けたいと思いますか。あてはまるもの一つに○をつけてください。

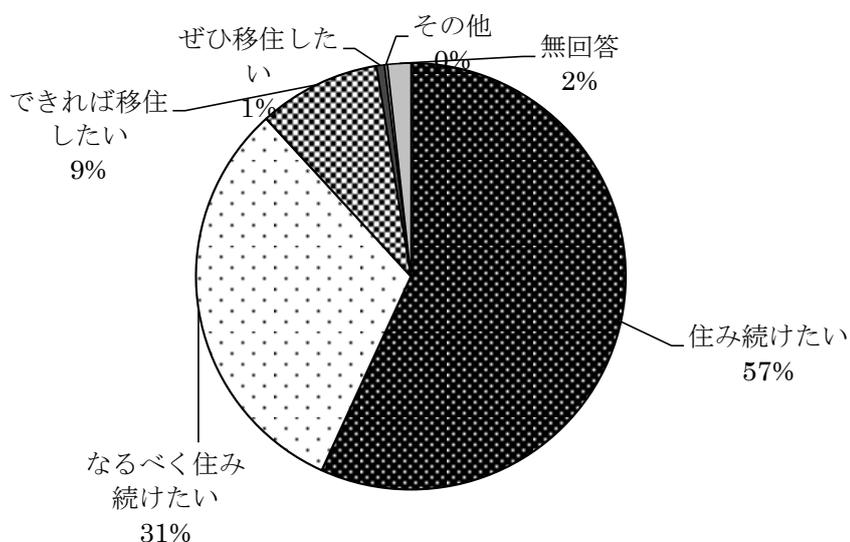
- ①住み続けたい ②なるべく住み続けたい
 ③できれば移りたい ④ぜひ移りたい

今後の居住意向としては、住み続けたい、なるべく住み続けたいを合わせて87パーセントの人が、このまま宗像市に住み続けるつもりであると回答している。

表8-1 今後の居住意向

住み続けたい	488 (57%)
なるべく住み続けたい	270 (30%)
できれば移りたい	79 (8%)
ぜひ移りたい	5 (1%)
無回答	31 (4%)
総計	799 (100%)

図8-1 今後の居住意向



問 8-1. 転出希望理由

 問 8-1 宗像市から移りたいと思うのはなぜですか。主な理由に三つ〇をつけてください。(〇は三つまで)

①自分が生まれ育ったところではない	②近くに親戚や友人がいない
③隣近所となじめない	④自然環境が悪い
⑤福祉施設や福祉サービスが整っていない	⑧通勤・通学に不便
⑥利用したい公共施設が整っていない	⑩仕事や商売・学校の関係で
⑦利用したい公共サービスが整っていない	⑫特に理由はない
⑨買い物に不便	
⑪まちの雰囲気が嫌い	
⑬その他()	

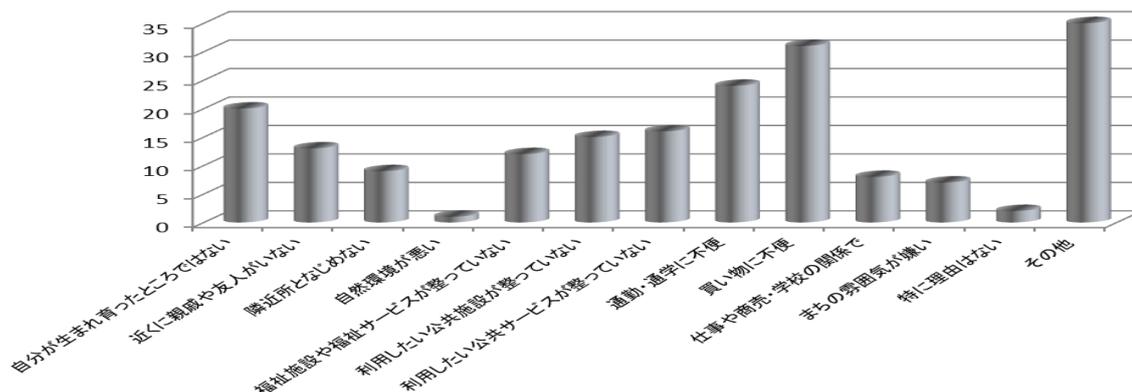
表 8-1-1 転出希望理由

①生まれ育ったところでない	20
②親戚・友人がいない	13
③隣近所となじめない	9
④自然環境が悪い	1
⑤福祉施設や福祉サービスが整っていない	12
⑥公共施設が未整備	15
⑦公共サービスが未整備	16
⑧通勤・通学に不便	24
⑨買い物に不便	31
⑩仕事や商売・学校の関係で	8
⑪まちの雰囲気が嫌い	7
⑫特に理由なし	2
⑬その他	35

大多数の人がこのまま宗像市内に住み続けたいと考えている一方で、約1割の人が転出を希望している。

その内訳を見ると、買い物、通勤・通学などの利便性の点で不満であることが挙げられている。また、自分の生まれ育ったところではない、親戚や友人がいないという理由で将来の転出を考えている人もいることがわかる。

図 8-1-1 転出希望理由



問 9 - 1 . 18 未満児童数

問 9 - 1 あなたの家族に18歳未満のお子さんは何人いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はあてはまるものすべて)

	いない	一人いる	二人いる	三人いる	四人いる	五人以上いる
(1) 就学前の子ども(0~5歳)がいる	—	①	②	③	④	⑤
(2) 小学生の子ども(6~11歳)がいる	—	①	②	③	④	⑤
(3) 中学生以上の子ども(12~18歳)がいる	—	①	②	③	④	⑤
(4) 18歳未満の子どもはいない	①	—	—	—	—	—

まず18歳未満の児童がいる世帯は、一人暮らしおよび夫婦のみの世帯を除いた世帯(522世帯)の約4割であるのに対し、いないと回答した世帯が約半数強の52パーセントであった。

表 9 - 1 - 1 18 歳未満児童の有無

いない	298 (52%)
いる	203 (43%)
無回答	21 (4%)
総計	522 (100%)

図 9 - 1 - 1 18 歳未満児童の有無

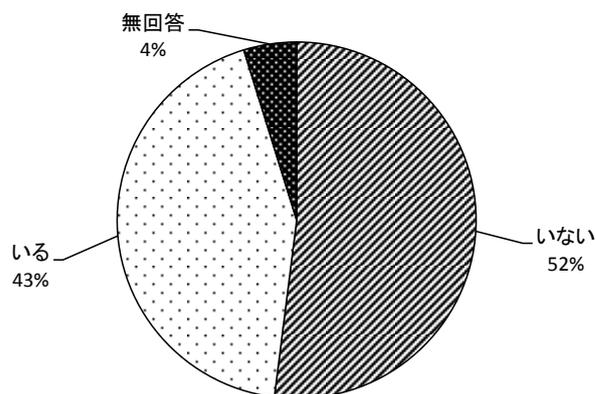
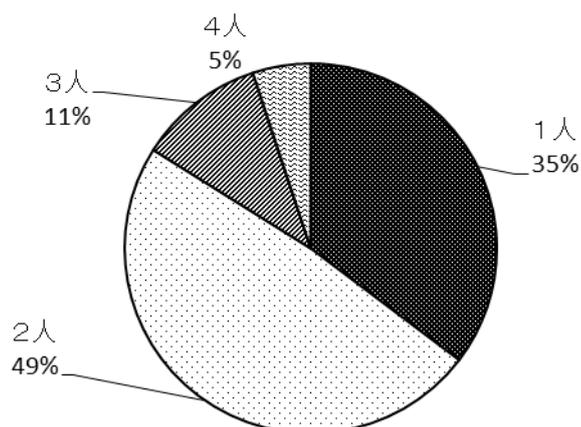


図 9-1-2 18 歳未満の子どもの人数



18 歳未満の子のいる世帯において、子どもの人数をみると、2人が最も多く、約半数弱の世帯が2人と回答している。次いで1人と回答した世帯が約3分の1であった。2人以下の子どものいる世帯は合わせて84パーセントとなっている。

子どもの年齢の内訳を見ると、およそ就学前から小学生までの若い子どものいる世帯がやや多い。

表 9-1-2 18 歳未満の子どもの内訳

1 人		2 人		3 人	
就学前の子 1	30	就学前 2	20	就学前 3	3
小学生 1	12	就学前 1 小学生 1	15	就学前 1 小学生 2	2
中学生 1	35	就学前 1 中学生 1	2	就学前 1 小学生 1 中学生 1	1
小計	77	小学生 2	27	就学前 2 小学生 1	4
		小学生 1 中学生 1	23	小学生 3	3
		中学生 2	19	小学生 1 中学生 2	5
		小計	106	小学生 2 中学生 1	4
				中学生 3	2
				小計	24

4 人	
就学前 4	1
就学前 2 小学生 2	3
就学前 3 小学生 1	1
小学生 2 中学生 2	4
小学生 1 中学生 3	1
小学生 3 中学生 1	1
小計	11

問10. 65歳以上高齢者数

問10 あなたのご家族に65歳以上の人はいますか（あなたご自身も含む）。あてはまるものすべてに○をつけてください。（○はあてはまるものすべて）

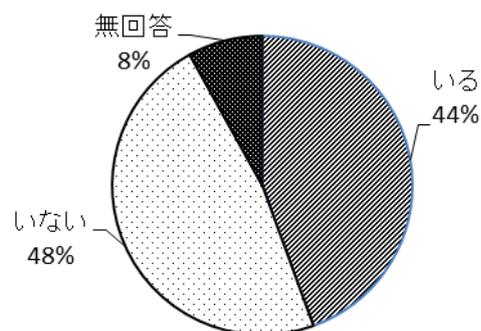
	いない	一人いる	二人いる	三人いる	いる 四人以上
(1) 65～74歳の人がある	—	①	②	③	④
(2) 75歳以上の人がある	—	①	②	③	④
(3) 65歳以上の人はいない	①	—	—	—	—

65歳以上の高齢者のいる世帯は、全体の約半分強の48パーセントである。高齢者のいない世帯も44パーセントあったが、これは必ずしも若い世帯というわけではない。

表10-1-1 高齢者の有無

いない	382 (44%)
いる	408 (48%)
無回答	69 (8%)
総計	859 (100%)

図10-1-1 高齢者の有無

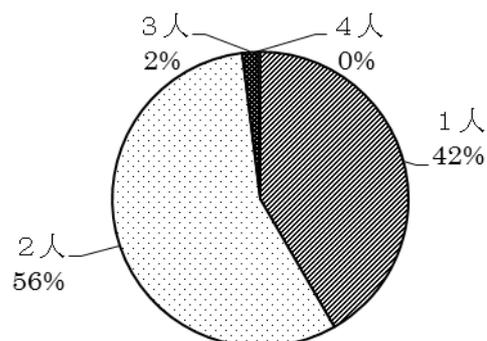


高齢者のいる世帯のうち、高齢者数は、1人が4割強、2人が4割強であった。

表10-1-2 高齢者数

1人	170 (42%)
2人	230 (56%)
3人	7 (4%)
4人	1 (0%)
小計	408 (100%)

図10-1-2 高齢者数

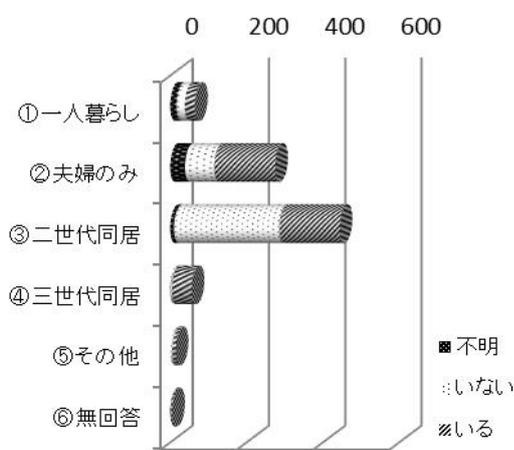


65 歳以上高齢者がどのような世帯で生活しているかを見ると、夫婦のみと二世帯同居が多く、後者は回答者の 18 パーセントの 158 世帯が該当していた。夫婦のみの世帯では、その半分以上が 65 歳以上の高齢者がいる世帯である。

表 10-1-3 世帯類型別高齢者有無

	い る	い な い	不 明	小 計
①一人暮らし	27	21	17	65
②夫婦のみ	160	76	39	275
③二世帯同居	158	276	10	444
④三世帯同居	52	3	1	56
⑤その他	9	5	0	14
⑥無回答	2	1	2	5
総計	408	382	69	859

図 10-1-3 世帯類型別高齢者有無



高齢者の内訳を見ると、75 歳以上の一人暮らしは 14 人であった。また、世帯の中に 75 歳以上の後期高齢者が 2 人以上いる世帯が 66 世帯あった。

表 10-1-4 高齢者の内訳

1 人		2 人	
65～74 歳	89	65～74 歳 2 人	127
75 歳以上	81	65～74 歳と 75 歳以上	41
		75 歳以上 2 人	62

3 人		4 人	
65～74 歳 2 人と 75 歳以上	4	65～74 歳 2 人と 75 歳以上 2 人	1
65～74 歳と 75 歳以上 2 人	2		
75 歳以上 3 人	1		

問 1 1. 要介護者

問 1 1 あなたのご家族に、高齢や障がい等のために、介護を必要とする人がいますか。
あてはまるもの一つに○をつけてください。

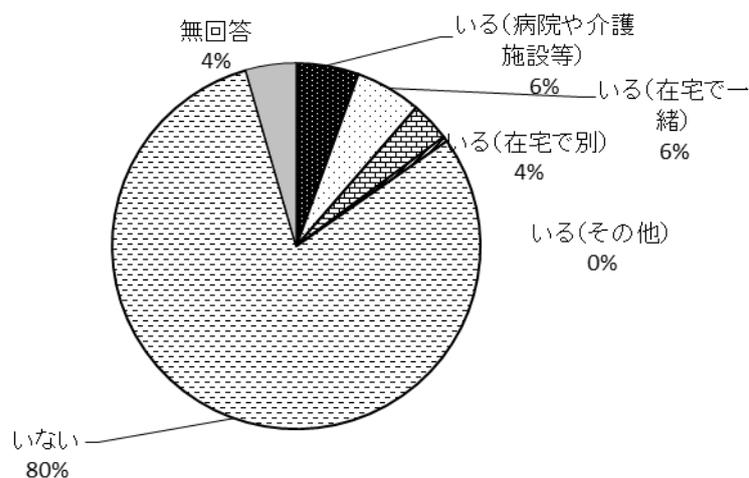
- | | |
|----------------------|-------------------|
| ①いる（病院や介護施設等で生活している） | ②いる（在宅で一緒に生活している） |
| ③いる（在宅で別に生活している） | ④いない |

高齢者や障がい者等、要介護の家族がいる世帯は、合わせて約 16 パーセントであった。
約 8 割の世帯は、要介護者がいない世帯であった。

表 1 1 - 1 要介護者の有無

病院・施設	47 (6%)
在宅（同居）	54 (6%)
在宅（別居）	30 (4%)
いる（その他）	4 (0%)
いない	690 (80%)
無回答	38 (4%)
総計	859 (100%)

図 1 1 - 1 要介護高齢者の有無



問13. 困りごと・不安

問13 あなたの暮らしの面で、日頃、何とかしなければならないと思っていることや困りごと・不安について、あてはまるもの一つに○をつけてください。

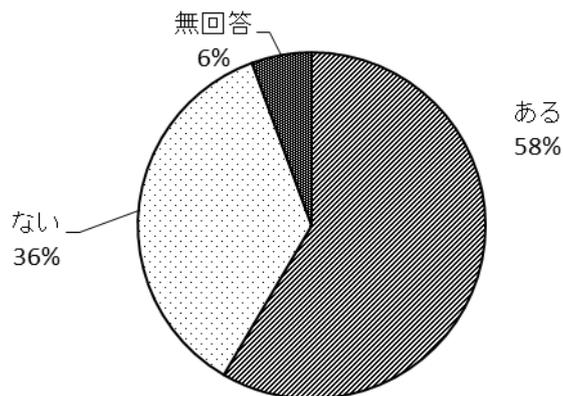
①困りごと・不安はない	②困りごと・不安がある
-------------	-------------

困りごと・不安のある人は、6割弱の502人であった。ないと回答した人は、3分の1であった。

表13-1 困りごとの有無

ある	502 (58%)
ない	309 (36%)
無回答	48 (6%)
総計	859 (100%)

図13-1 困りごとの有無



問13-1. 困りごと・不安の内容

問13-1 日頃、何とかしなければならないと思っていることや困りごと・不安は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

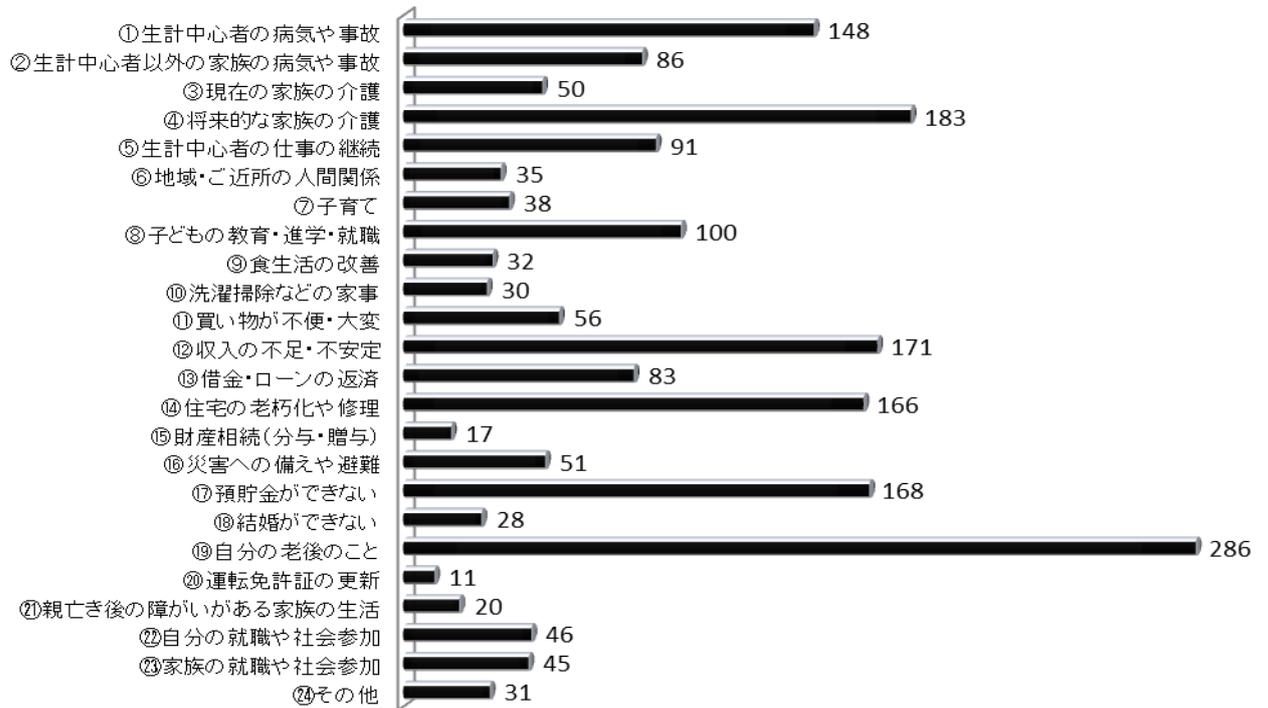
①生計中心者の病気や事故	②家族の病気や事故
③現在の家族の介護	④将来的な家族の介護
⑤仕事の継続	⑥地域・ご近所の人間関係
⑦子育て	⑧子どもの教育・進学
⑨食生活の改善	⑩洗濯掃除などの家事
⑪買い物が不便・大変	⑫収入の不足・不安定
⑬借金・ローンの返済	⑭住宅の老朽化や修理
⑮財産相続（分与・贈与）	⑯災害時の備え
⑰預貯金ができない	⑱結婚ができない
⑲自分の老後のこと	⑳運転免許証の更新
㉑親亡き後の障害がある家族の生活	㉒自分の就職や社会参加
㉓家族の就職や社会参加	㉔その他（ ）

困りごと・不安の内訳を見ると、最も不安に思っていることは、自分の老後のことであり、約3分の1の人が挙げていた。次いで、将来的な家族の介護、収入の不足・不安定、住宅の老朽化や修理、預貯金ができないこと、生計中心者や家族の病気・事故、さらに子どもの教育が挙げられていた。

表13-1-1 困りごと・不安の内容

①生計中心者の病気・事故	148	⑬借金・ローンの返済	83
②①以外の家族の病気・事故	86	⑭住宅の老朽化や修理	166
③現在の家族の介護	50	⑮財産相続（分与・贈与）	17
④将来的な家族の介護	183	⑯災害時の備えや避難	51
⑤仕事の継続	35	⑰預貯金ができない	168
⑥地域・ご近所の人間関係	9	⑱結婚ができない	28
⑦子育て	38	⑲自分の老後のこと	286
⑧子どもの教育	100	⑳運転免許証の更新	11
⑨食生活改善	32	㉑親亡き後の障害者	20
⑩掃除洗濯などの家事	30	㉒自分の就職や社会参加	46
⑪買い物が不便・大変	56	㉓家族の就職や社会参加	45
⑫収入の不足・不安定	171	㉔その他	31

図 1 3 - 1 - 1 困りごと・不安の内容



*その他の内容

高額な税金・国保、持病で5月末で仕事を辞めた。将来在宅酸素が必要と言われている、
 年収が100万以上落ち新築のため固定資産税の増額と毎月のローンと生活費で、マイナスが想定
 されるため夫婦仲がぎくしゃくして別居に近い状態です
 別に生活している親の介護 実家の親のこと
 遺産相続によって今の家を出なければならない。その為、市内で新しい家を見つけないのみに
 つかない
 家賃から町内会費を天引きされているが、町内会から何も連絡がなくゴミ出しなどの市の情報
 が届かない
 子どもが結婚できない、子どもの教育費が高額すぎる 子供の結婚
 子供達の学校に行っている間だけ仕事(パート)をしたいが夏休みの間子供だけ家におけない
 ので、なかなか仕事が見つからない。
 市役所に行くのがバスが不便。免許証なしの為
 住民税が高い
 将来の事なのでその時にならないとまだたくさんあります
 消費税アップに対し年金の削減など。

2. 生計中心者について

問14. 生計中心者

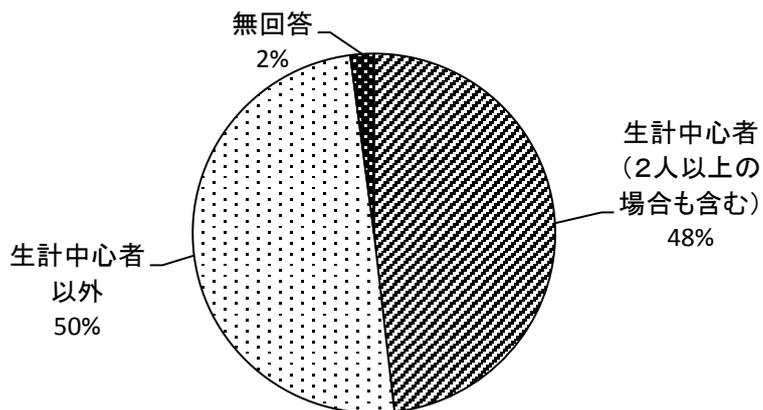
問14 あなたは、生計中心者ですか。あてはまるもの一つに○をつけてください。
①はい ②いいえ

回答者の約半数が生計中心者、残りの半数が生計中心者以外との回答であった。

表14-1 生計中心者か否か

生計中心者	414 (48%)
生計中心者以外	427 (50%)
無回答	18 (2%)
総計	(100%)

図14-1 生計中心者か否か



問 1 4 - 1 . 生計中心者の年齢と続柄 (生計中心者以外の人への質問)

問 1 4 - 1 生計中心者の年齢とあなたからみた続柄について、あてはまるもの一つに○をつけてください。

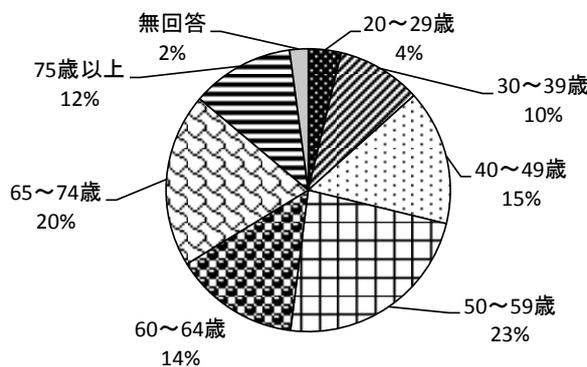
【年齢】 ①20～29歳 ②30～39歳 ③40～49歳 ④50～59歳 ⑤60～64歳 ⑥65～74歳 ⑦75歳以上
【続柄】 ①配偶者 ②父親 ③母親 ④子 ⑤孫 ⑥兄弟 ⑦その他 ()

生計中心者で最も多い年齢層は、50歳代で23パーセント、次いで65～74歳20パーセント、60～64歳14パーセント、40歳代15パーセントと続く。

表 1 4 - 1 - 1 年齢

20～29歳	16 (4%)
30～39歳	41 (10%)
40～49歳	66 (15%)
50～59歳	99 (23%)
60～64歳	61 (14%)
65～74歳	85 (20%)
75歳以上	50 (12%)
無回答	9 (2%)
合計	427 (100%)

図 1 4 - 1 - 1 年齢

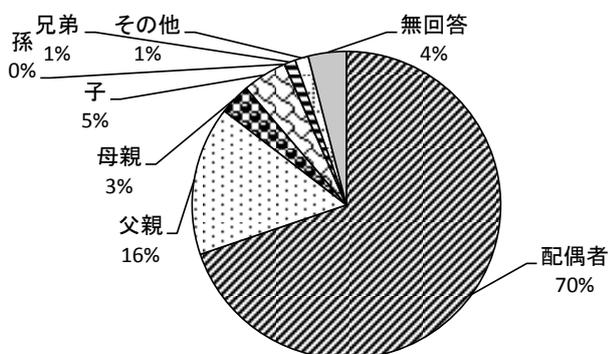


続柄として最も多いのは、配偶者で70パーセント、次いで父親の16パーセントであった。

表 1 4 - 1 - 2 続柄

配偶者	298 (70%)
父親	67 (16%)
母親	14 (3%)
子	20 (5%)
孫	0 (0%)
兄弟	5 (1%)
その他	6 (1%)
無回答	17 (4%)
合計	427 (100%)

図 1 4 - 1 - 2 続柄



問 1 4 - 2 . 生計中心者の職業

問 1 4 - 2 生計中心者のお仕事について、あてはまるもの一つに○をつけてください。

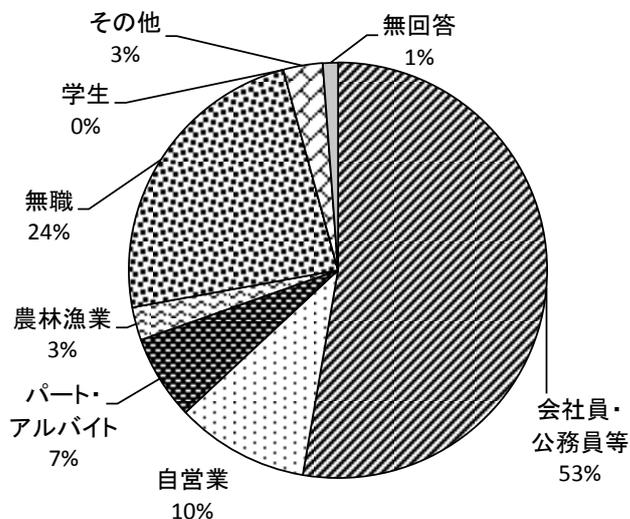
- | | | | |
|-----------|------|------------|-------|
| ①会社員・公務員等 | ②自営業 | ③パート・アルバイト | ④農林漁業 |
| ⑤無職 | ⑥学 生 | ⑦その他 () | |

生計中心者の職業としては、会社員・公務員などの常勤被用者が半数の 53 パーセント、次いで無職（主婦、年金生活者を含む）が 24 パーセントであった。

表 1 4 - 2 - 1 職業

会社員・公務員	225 (53%)
自営業	44 (10%)
パート・アルバイト	28 (7%)
農林漁業	11 (3%)
無職	101 (24%)
学生	0 (0%)
その他	13 (3%)
無回答	5 (1%)
合計	427 (100%)

図 1 4 - 2 - 1 職業



問 1 5 . 生計中心者の職場のある地域

 問 1 5 生計中心者の現在の勤め先（職場がある地域）について、あてはまるもの一つに○をつけてください。

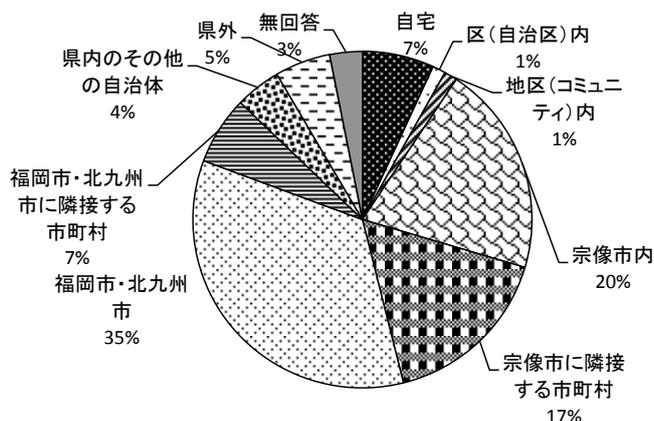
- | | | | |
|--------------|-----------|-------------------|-------------|
| ①自宅 | ②区（自治会）内 | ③地区（コミュニティ）内 | ④宗像市内 |
| ⑤宗像市に隣接する自治体 | ⑥福岡市・北九州市 | ⑦福岡市・北九州市に隣接する自治体 | ⑧県内のその他の自治体 |
| ⑨県外 | | | |

回答者以外の生計中心者のうち、働いている人 321 人の職場のある地域を見ると、福岡市・北九州市が最も多く、約 3 分の 1 の人が福岡市または北九州市に通勤していることがわかる。次いで宗像市内 20 パーセント、宗像市に隣接する市町村 17 パーセントなど家から比較的近い職場に通勤している。全体としては、通勤時間およそ 30 分から 1 時間圏内で仕事をしていると考えられる。

表 1 5 - 1 職場のある地域

自宅	22 (7%)
自治区内	4 (1%)
コミュニティ内	4 (1%)
宗像市内	65 (20%)
隣接市町村	53 (17%)
福岡市・北九州市	111 (35%)
福岡・北九州隣接市町村	21 (7%)
県内その他	14 (4%)
県外	17 (5%)
無回答	10 (3%)
合計	321 (100%)

図 1 5 - 1 職場のある地域



問 1 6 . 通勤手段

 問 1 6 どのような通勤手段をお使いですか。あてはまるもの一つに○をつけてください。
 。

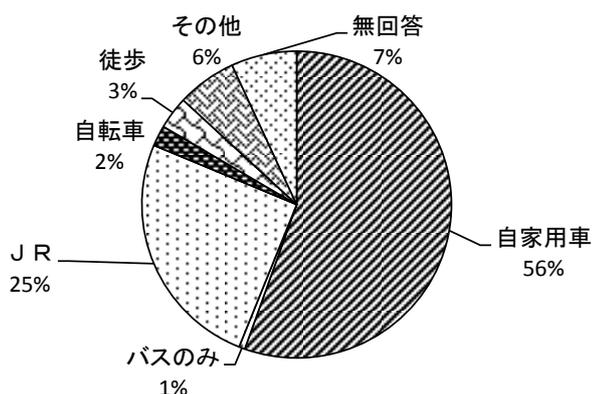
①自家用車	②バスのみ	③ J R	④自転車	⑤徒 歩	⑥その他
-------	-------	-------	------	------	------

主な通勤手段は、56パーセントの人が自家用車と回答している。次いで J R の利用が 25パーセントとなっている。

表 1 6 - 1 通勤手段

自家用車	178 (56%)
バスのみ	2 (1%)
J R	81 (25%)
自転車	7 (2%)
徒歩	11 (3%)
その他	20 (6%)
無回答	22 (7%)
小計	321 (100%)

図 1 6 - 1 通勤手段



問 1 7 . 無職理由

 問 1 7 現在、無職（働いていない）理由について、あてはまるものすべてに○をつけてください。

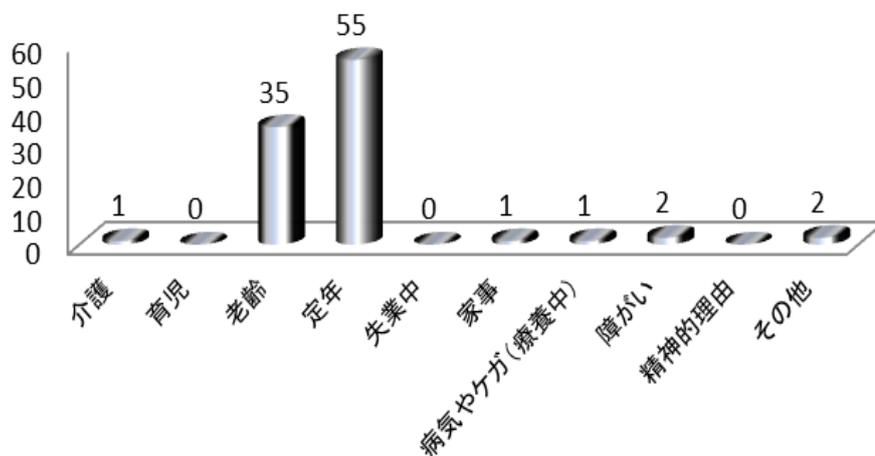
- | | | | | | | |
|------|-------|-----|-----|-----|-----|--------|
| ①介護 | ②育児 | ③老齡 | ④定年 | ⑤失業 | ⑥家事 | ⑦病気やケガ |
| ⑧障がい | ⑨その他（ | | | | | ） |

自分以外の生計中心者が無職である場合、その理由として挙がっているのは、主として定年 55 人、老齡 35 人であった。（注：複数回答であるため重なっている場合あり）

表 1 7 - 1 無職理由

介護	1
育児	0
老齡	35
定年	55
失業	0
家事	1
病気やケガ	1
障がい	2
精神的理由	0
その他	1

図 1 7 - 1 無職理由



問 1 8 . 生計中心者の健康状態

 問 1 8 生計中心者の最近 1 か月間の健康状態について、あてはまるもの一つに○をつけてください。

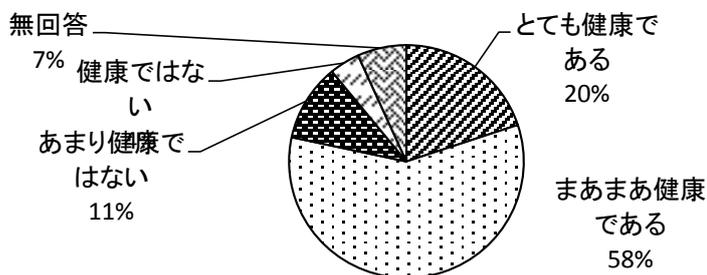
- ①とても健康である ②まあまあ健康である ③あまり健康ではない
 ④健康ではない

生計中心者（回答者本人が生計中心者である場合を含む）の最近の健康状態は、まあまあ健康と回答した人が約半数、とても健康である状態を加えると、78 パーセントの人が、生計中心者が健康であると回答している。その一方で、15 パーセントの生計中心者が健康ではないと回答している。

表 1 8 - 1 生計中心者健康状態

とても健康	171 (20%)
まあまあ健康	502 (58%)
あまり健康ではない	92 (11%)
健康ではない	36 (4%)
無回答	58 (7%)
合計	859 (100%)

図 1 8 - 1 生計中心者健康状態



3. 地域での生活について

問19. 近所とのつきあいの程度

問19 あなたの家庭では、ご近所の人と日頃どのようなおつきあいをされていますか。あてはまるもの一つに○をつけてください。

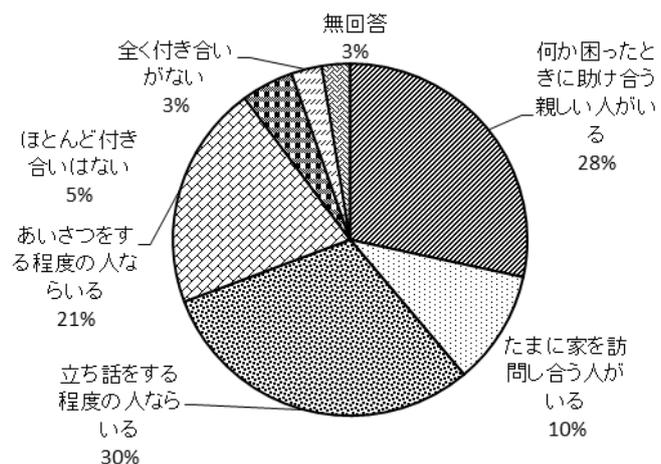
- | |
|----------------------|
| ①何か困ったときに助け合う親しい人がいる |
| ②たまに家を訪問しあう人がいる |
| ③立ち話をする程度の人ならいる |
| ④あいさつをする程度の人ならいる |
| ⑤ほとんど付き合いはない |
| ⑥全く付き合いがない |

近所とのつきあいの程度は、困った場合に助け合う親しい間柄の人がいると回答した人が3割いる一方で、立ち話程度も同様に3割であった。次いで挨拶をする程度の人ならいるが2割あった。ほとんどない、全くないという回答も少数ながらあった。

表19-1 近所とのつきあい

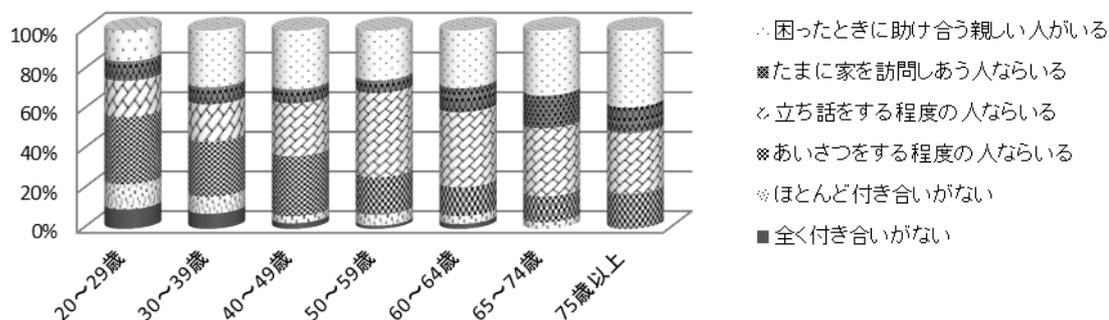
①助け合う	244 (28%)
②訪問しあう	90 (10%)
③立ち話程度	261 (30%)
④あいさつ程度	177 (21%)
⑤ほとんどない	41 (5%)
⑥全くない	24 (3%)
⑦無回答	22 (3%)
総計	859 (100%)

図19-1 近所とのつきあい



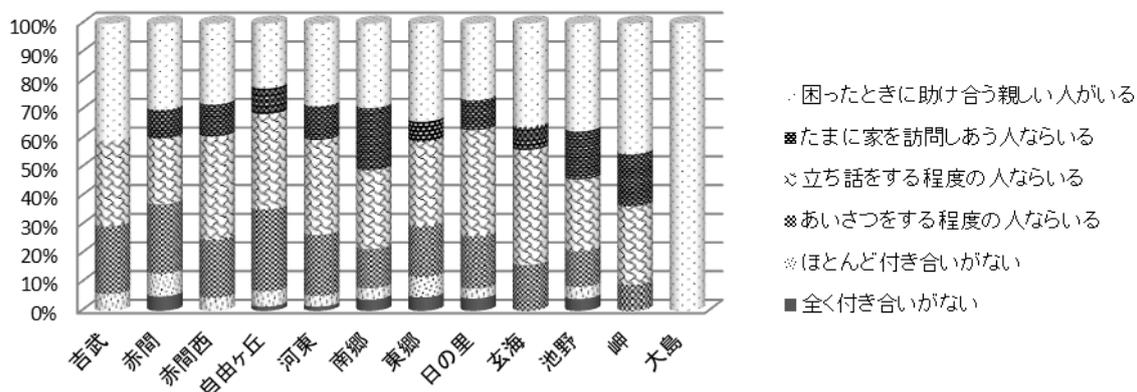
年代別に近所づきあいの程度を見ると、親しく助け合う間柄についてはやや年齢が高い人に多いと言える。立ち話をする程度の付き合いは、50歳代に多い。あいさつをする程度の付き合いは、年齢が上がるに従って減っている。

図 1 9 - 2 年代別近所づきあいの程度



地域別に見ると、(大島や岬は回答者数が少ないので単純に比較はできないが) 旧玄海地区、吉武に親しい関係がみられる。住宅地の自由ヶ丘、日の里では、立ち話やあいさつ程度の付き合いを保っている人が多い。

図 1 9 - 3 地域別近所づきあいの程度



問 20. 近所の人を手伝った経験

問 20 あなたの家庭では、ご近所の人から次のような頼み事をされて、お手伝いした経験がありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

(○はあてはまるものすべて)

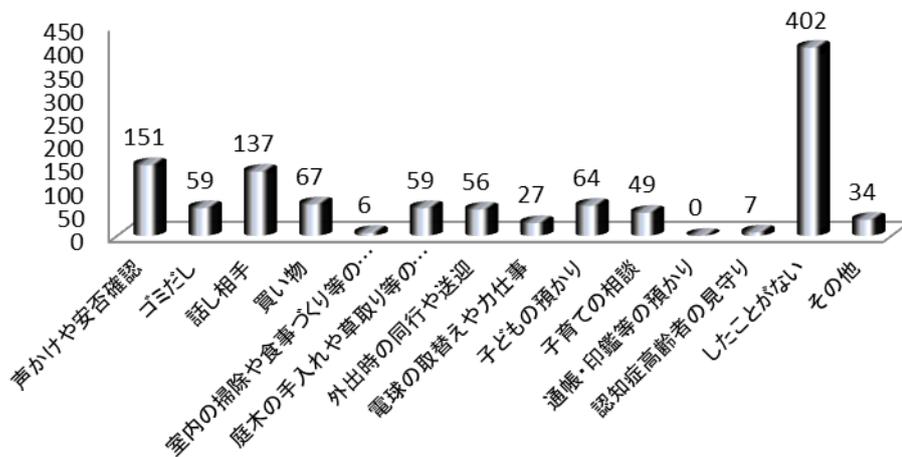
①声かけや安否確認	②ゴミだし	③話し相手	④買い物
⑤室内の掃除や食事づくり等の家事	⑥庭木の手入れや草取り等の屋外の掃除	⑦外出時の同行や送迎	⑧電球の取替えや力仕事
⑨子どもの預かり	⑩子育ての相談	⑪通帳・印鑑等の預かり	⑫認知症高齢者の見守り
⑬したことがない	⑭その他 ()		

47パーセントの人が手伝ったことがないと回答している。手伝ったことのある人のうち、「声かけや安否確認」が最も多く、次いで「話し相手」となっている。「買い物や外出時の同行」、「子どもの預かり」や「子育ての相談」も手伝い経験として見られる。

表 20-1 お手伝いの経験

①声かけ安否確認	151	⑧電球取替え・力仕事	27
②ゴミだし	59	⑨子ども預かり	64
③話し相手	137	⑩子育ての相談	49
④買い物	67	⑪通帳・印鑑の預かり	0
⑤室内の掃除などの家事	6	⑫認知症高齢者の見守り	7
⑥屋外の掃除	59	⑬したことがない	402
⑦外出同行・送迎	56	⑭その他	34

図 20-1 お手伝いの経験



お手伝い経験を年代別に見ると、60歳以上の人では、「したことがない」と回答した人の割合が大きく減る。

声かけや安否確認の経験のある人の割合は、65歳以上のグループで大きく増加する。

子育てや子どもの預かりをしたことのある人は、30歳代から50歳代が多い。

話し相手になったことのある人は、年代によって大きな差がない。

表20-2 年代別お手伝い経験

	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 64歳	65～ 74歳	75歳 以上
声かけや安否確認	4	11	17	18	22	54	25
ゴミだし		4	9	11	11	19	5
話し相手	11	14	21	10	20	41	20
買い物		11	10	13	14	13	6
室内の掃除や食事づくり等の家事	1		2	2		1	
庭木の手入れや草取り等の屋外の掃除	4	4	8	8	10	19	6
外出時の同行や送迎	1	6	12	10	14	11	2
電球の取替えや力仕事	1	5	4	4	2	8	3
子どもの預かり	1	13	24	12	10	3	1
子育ての相談	5	14	13	8	2	4	3
通帳・印鑑等の預かり	0	0	0	0	0	0	0
認知症高齢者の見守り			1	2		4	
したことがない	52	58	65	70	59	75	23
(したことがない人の割合)	73.2	54.7	44.5	54.2	46.0	40.1	25.0
その他	1	5	6	6	5	8	3
年齢別回答者数	71	106	146	129	128	187	92

問 2 1 . 地域で何とかしなければならないこと

問 2 1 あなたが、地域で何とかしなければならないと、日頃から思っていることについて、あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はあてはまるものすべて)

①単身高齢者や高齢者だけの世帯への支援	②子育て中の世帯への支援
③障がいがある人や介護が必要な人への支援	④健康維持・増進に関する活動
⑤低所得世帯の就労・生活費に関する支援	⑥子どもの健全育成に関する活動
⑦防犯・防災に関する活動	⑧環境保全に関する活動
⑨地域コミュニティの推進に関する活動	⑩介護予防に関する活動
⑪障がい者の就労や自立支援に関する活動	⑫児童虐待防止に関する活動
⑬地産地消に関する活動	⑭就労支援に関する活動
⑮自宅で介護をしている家庭への支援	⑯交通事故の発生を抑制する活動
⑰認知症高齢者やその家族への支援	⑱低所得者世帯の子どもへの教育支援
⑲認知症高齢者や知的障がいがある人の権利擁護に関する支援	
⑳災害防災に強い地域社会づくり	
㉑特になし	
㉒その他 ()	

地域で何とかしなければならないと回答者が認識していることは、まず、高齢者世帯への支援が飛び抜けて多く、43.1 パーセントの人が挙げている。

次いで防犯・防災活動が 29.3 パーセント、障がい者や要介護者への支援が 24.7 パーセント、自宅で介護をしている家庭への支援がの人が 24.3 パーセントとなっている。

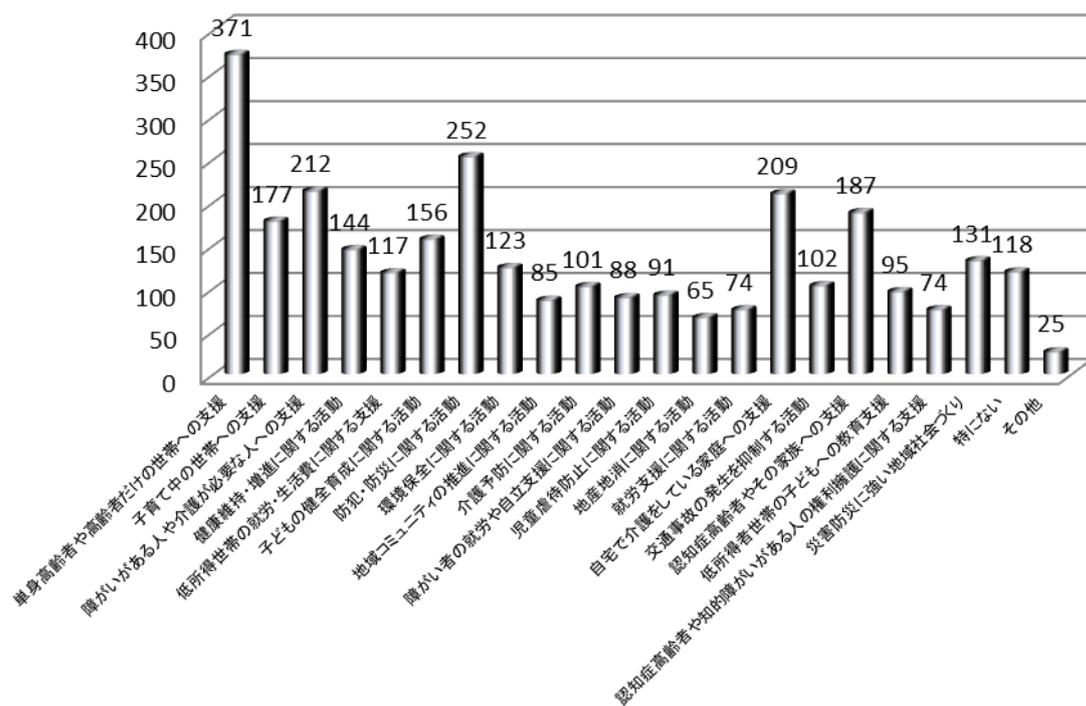
そのほか目立つのは、認知症高齢者やその家族への支援、子育て家庭への支援、子どもの健全育成活動、環境保全活動、健康づくり活動であった。

一方、特になしと回答した人も 118 人いた。

表 2 1 - 1 地域で何とかしなければならないこと

①高齢者世帯への支援	371	⑫児童虐待防止活動	91
②子育て家庭への支援	177	⑬地産地消活動	65
③障がい者・要介護者への支援	212	⑭就労支援活動	74
④健康づくり活動	144	⑮自宅介護の家庭支援	209
⑤低所得者への支援	117	⑯交通事故発生抑制活動	102
⑥健全育成活動	156	⑰認知症高齢者・家族への支援	187
⑦防犯・防災活動	252	⑱低所得家庭児童の教育支援	95
⑧環境保全活動	123	⑲権利擁護に関する支援	74
⑨コミュニティ推進活動	85	⑳防災に強い地域社会づくり	131
⑩介護予防活動	101	㉑特になし	118
⑪障がい者自立支援活動	88	㉒その他	25

図 2 1 - 1 地域で何とかしなければならないこと



問 2 1 - 1 . 誰が何とかするべきか

問 2 1 - 1 あなたが地域で何とかしなければならないと思っていることについて、主に誰（どの団体）が何とかしなければならないと思いますか。主なもの三つに○をつけてください。（○は三つまで）

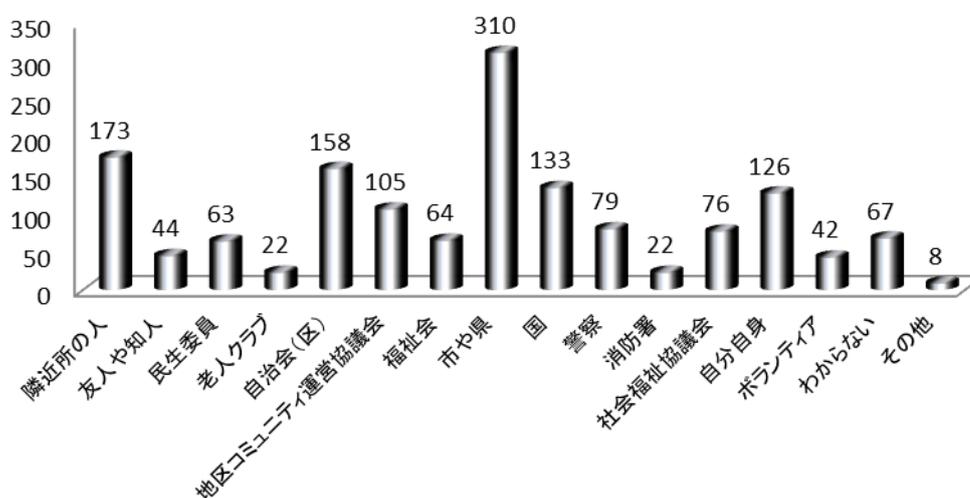
①隣近所の人	②友人や知人	③民生委員	④老人クラブ
⑤自治会（区）	⑥地区コミュニティ運営協議会	⑦福祉会	⑧市や県
⑧国	⑨警察	⑩消防署	⑪社会福祉協議会
⑫自分自身	⑬わからない	⑭その他（	）

地域で何とかすべきところは、市や県が最も多くなっている。次いで、隣近所、自治会、国、自分自身、地区コミュニティ運営協議会と続く。

表 2 1 - 1 - 1 誰が何とかすべきか

①隣近所の人	173	⑨国	133
②友人や知人	44	⑩警察	79
③民生委員	63	⑪消防署	22
④老人クラブ	22	⑫社会福祉協議会	76
⑤自治会（区）	158	⑬自分自身	126
⑥地区コミュニティ運営協議会	105	⑭わからない	67
⑦福祉会	64	⑮その他	8
⑧市や県	310		

図 2 1 - 1 - 1 誰が何とかすべきか



問 2 2 . 参加している地域活動

問 2 2 あなたは、日頃、どのような地域活動に参加していますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はあてはまるものすべて)

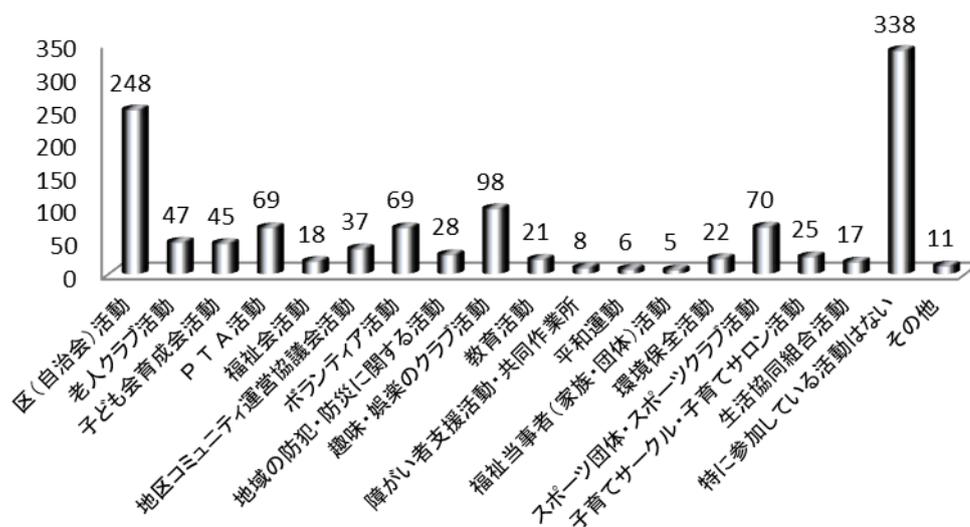
①区(自治会)活動	②老人クラブ活動
③子ども会育成会活動	④P T A活動
⑤福祉会活動	⑥地区コミュニティ運営協議会活動
⑦ボランティア活動(a福祉・b健康づくり・c環境・d観光・e国際交流・f子育て)	
⑧民生委員児童委員活動	⑨趣味・娯楽のクラブ活動
⑩教育活動	⑪障がい者支援活動・共同作業所
⑫平和運動	⑬男女平等参画社会推進活動
⑭環境保全活動	⑮スポーツ団体・スポーツクラブ活動
⑯子育てサークル・子育てサロン活動	⑰生活協同組合活動
⑱地域の防犯・防災に関する活動	⑲特に参加している活動はない
⑳その他()	

「特に参加している活動はない」と回答した人が 338 人(39 パーセント)であった。活動している人のうち、日頃参加している活動は、自治会活動が最も多く、248 人であった。

表 2 2 - 1 参加している地域活動

①区(自治会)活動	248	⑨趣味・娯楽のクラブ活動	98	⑰生活協同組合活動	17
②老人クラブ活動	47	⑩教育活動	21	⑱特に参加している活動はない	338
③子ども会育成会活動	45	⑪障がい者支援活動・共同作業所	8	⑲その他	11
④P T A活動	69	⑫平和運動	6		
⑤福祉会活動	18	⑬福祉当事者(家族・団体)活動	5		
⑥地区コミュニティ運営協議会活動	37	⑭環境保全活動	22		
⑦ボランティア活動	69	⑮スポーツ団体・スポーツクラブ活動	70		
⑧地域の防犯・防災に関する活動	28	⑯子育てサークル・子育てサロン活動	25		

図 2 2 - 1 参加している活動



その他の内訳

内容不明	3
ごみ当番	1
ネットワーク	1
リサイクル	1
個人的に生活の手助けをしている	1
児童見守り活動	1
主任児童委員活動と青少年補導員活動	1
商工会青年部の行うボランティア活動	1
草刈	1

問 2 2 - 1 . 地域活動に参加してよかったこと

 問 2 2 - 1 地域活動に参加してよかったことは何ですか。主なもの三つに○をつけてください。(○は三つまで)

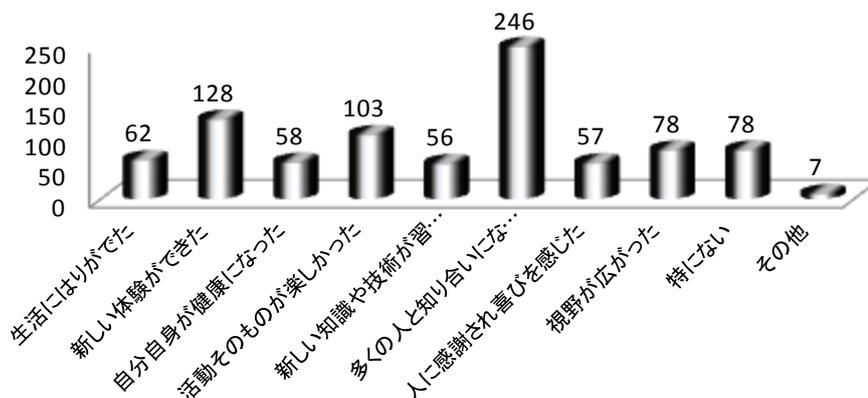
①生活にはりがでた	②新しい体験ができた	③自分自身が健康になった
④活動そのものが楽しかった	⑤新しい知識や技術が習得できた	
⑥多くの人と知り合いになれた	⑦人に感謝され喜びを感じた	
⑧視野が広がった	⑨特にない	
⑩その他 ()		

地域活動に参加している人では、参加してよかったこととして、多くの人と知り合いになれたことを挙げている人が多い。さらに、「新しい体験ができた」と自分自身の成長と結びつけた評価や、「活動そのものが楽しかった」と充実感を述べている人が多かった。

表 2 2 - 1 - 1 参加してよかったこと

生活にはりができた	62
新しい体験ができた	128
自分自身が健康になった	58
活動そのものが楽しかった	103
新しい知識や技術が習得できた	56
多くの人と知り合いになれた	246
人に感謝され喜びを感じた	57
視野が広がった	78
特にない	78
その他	7

図 2 2 - 1 - 1 参加してよかったこと



問 2 2 - 2. 地域活動の拠点

問 2 2 - 2 地域活動の拠点はどこですか。主なもの三つに○をつけてください。

(○は三つまで)

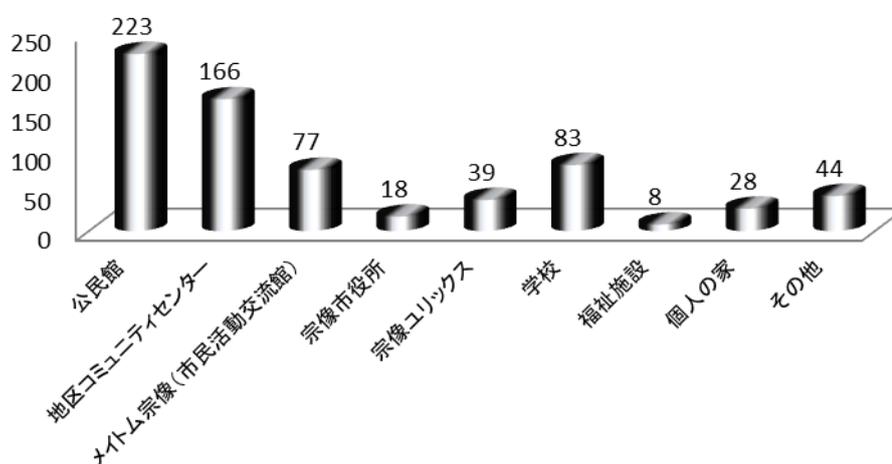
①公民館	②地区コミュニティセンター	③メイトム宗像(市民活動交流館)
④宗像市役所	⑤宗像ユリックス	⑥学校
⑦福祉施設	⑧個人の家	
⑨その他()		

表 2 2 - 2 - 1 地域活動の拠点

①公民館	223
②地区コミュニティセンター	166
③メイトム宗像	77
④宗像市役所	18
⑤宗像ユリックス	39
⑥学校	83
⑦福祉施設	8
⑧個人の家	28
⑨その他	44

地域活動の場所としては、公民館が最も多く、次いで地区コミュニティセンターが多かった。その他の内訳としては、公園、グラウンド、団体事務所の本部、ゆめタウン、ライズ、海の道むなかた館、勤労者体育センター、市民体育館、集会所、城山、生活域、地区全体、保育園、幼稚園などが挙がっていた。

図 2 2 - 2 - 1 地域活動の拠点



問 2 2 - 3. 地域活動をする上で気になること

問 2 2 - 3 あなたが地域活動をするうえで、気になっていること、困っていることについてあてはまるものすべてに○をつけてください。

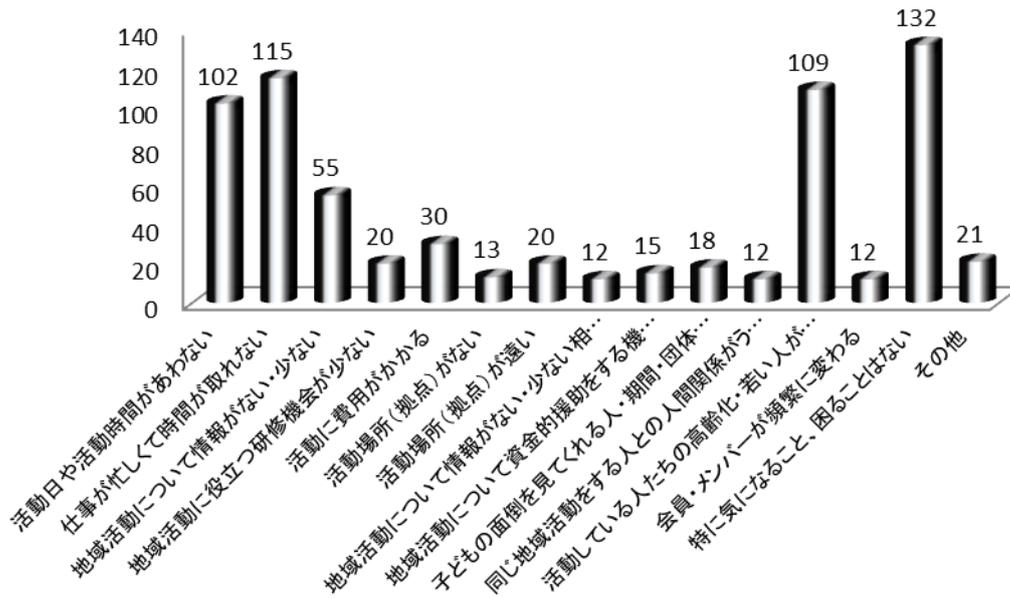
①活動日や活動時間があわない	②仕事が忙しくて時間が取れない
③地域活動についての情報がない・少ない	④地域活動に役立つ研修機会が少ない
⑤活動に費用がかかる	⑥活動場所（拠点）がない
⑦活動場所（拠点）が遠い	
⑧地域活動について情報が少ない、相談する専門職がない	
⑨地域活動について資金的支援をする機関・団体等がない	
⑩子どもの面倒を見てくれる人・機関・団体等がない	
⑪同じ地域活動をする人との人間関係がうまくいかない	
⑫活動している人たちの高齢化・若い人が少ない	
⑬会員・メンバーが頻繁に変わる	⑭特に気になること、困ることはない
⑮その他（	）

地域活動をしている人の中で、気になっていること、困っていることでは、特にないと回答した人が 132 人いた。具体的に困っていることで最も多かったのは、「仕事が忙しくて時間が取れない」ことであった。次いで「活動する人の高齢化」や「活動日・時間が合わない」が挙がっていた。

表 2 2 - 3 - 1 地域活動をする上で気になること

①活動日・時間が合わない	102
②仕事が忙しく時間が取れない	115
③活動についての情報が少ない	55
④活動に役立つ研修機会が少ない	20
⑤活動費用がかかる	30
⑥活動拠点が少ない	13
⑦活動拠点が遠い	20
⑧活動の情報が少ない、相談をする専門職がない	12
⑨資金的支援をする機関・団体がない	15
⑩子どもの面倒を見てくれる人・機関・団体がない	18
⑪活動する人の人間関係がうまくいかない	12
⑫活動する人の高齢化	109
⑬メンバーが頻繁に変わる	12
⑭特になし	132
⑮その他	21

図 2 2 - 3 - 1 地域活動をする上で気になる点



その他の内訳

ユリックスのメイトムは「ふれあいバス」で行くにも便利が悪い。車の送迎ができない人はどうしていけばいいか？私はタクシーを使いますが、お金がかかりすぎ
拠点なしのため関係なし
後継者がいない
地域活動は自由参加で行ってほしい
役員の中でやる気のない人が多少いるので困る。私もやる気をなくしている。
活動日の情報が、わりとギリギリになっている。
個人的にやめたいけど、代々のつながりがあるのか。車が無いので足がない。
個人的に情報が入ってこない
施設・備品が古いものがある
自治会の活動が面倒。できればやめたい。でも世間体でやめられない。
自治会長は精神的に負担が重過ぎる。全てくじ引きで決まるので辛い。宗像市は地域の役員の数が多すぎる。
自分が健康でなければならない
社協等主催の研修会、講演会などで参加割当てを自治会等に半ば強制的で、参加要請(割当て)があるのに1人500円の参加費が必要。猛省お願いします。
地域活動が多様化、複雑化してきている。もっと活動をわかりやすく行ってほしい
定年後に地域活動をしたいので、それらに関する情報を少しずつ知りたい。
働く人も参加できるよう、夜の集まりなどあればよい
猫を地域で愛護したい
病気になった為、活動が出来ない
民生委員が信頼できない
面倒くさい

問 2 3. 福祉に関する情報源

問 2 3 あなたは、福祉に関する情報（福祉サービスやボランティア活動等に関する情報）を、どこ（誰）から得ていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（○はあてはまるものすべて）

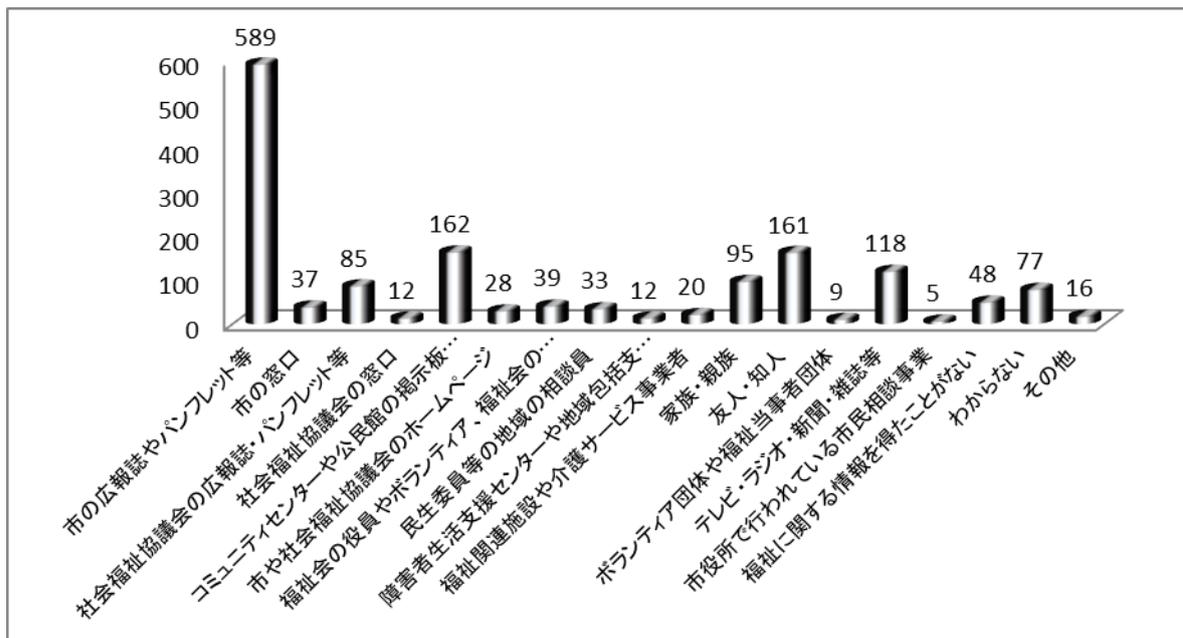
①市の広報紙やパンフレット等
②市の窓口
③社会福祉協議会の広報紙・パンフレット等
④社会福祉協議会の窓口
⑤コミュニティセンターや公民館の掲示板や配布物
⑥市や社会福祉協議会のホームページ
⑦福祉会の役員やボランティア、福祉会の広報紙等
⑧民生委員等の地域の相談員
⑨障害者生活支援センターや地域包括支援センター、子育て支援センター
⑩福祉関連施設や介護サービス事業者
⑪家族・親族
⑫友人・知人
⑬ボランティア団体や福祉当事者団体
⑭テレビ・ラジオ・新聞・雑誌等
⑮市役所で行われている市民相談事業
⑯福祉に関する情報を得たことがない
⑰わからない
⑱その他（)

福祉に関する情報の入手先としては、市の広報誌やパンフレットが飛びぬけて多く、3分の2の人がそれを挙げていた。次いで、地区のコミセンでの掲示物、友人・知人を通しての情報が多かった。一方で、福祉情報を得たことがないという人が48人おり、わずかではあるが情報を全く得ていない人もいる。

表 2 3 - 1 福祉情報の入手先

①市の広報誌・パンフレット	589	⑩福祉施設、介護事業者	20
②市の窓口	37	⑪家族・親族	95
③社協の広報誌・パンフレット	85	⑫友人・知人	161
④社協の窓口	12	⑬ボランティア団体・当事者団体	9
⑤地区コミュニティセンター	162	⑭テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	118
⑥市や社協のホームページ	28	⑮市民相談事業	5
⑦福祉会	39	⑯福祉情報を得たことがない	48
⑧民生委員等	33	⑰わからない	77
⑨障害者生活支援センター等	12	⑱その他	16

図 2 3 - 1 福祉情報の入手先



その他の内訳

インターネット（SNS、HPを含む）	5
DVDに保存したテレビ録画	1
回覧板	3
研修会	1
職場（福祉関係の職場を含む）	5
老人会や自治会	1

問 2 4 . 小地域福祉会認知度

問 2 4 宗像市では、地域住民が自主的に地域福祉活動等を行う「(小地域)福祉会」が組織されています。あなたは、「(小地域)福祉会」をご存知ですか。あてはまるもの一つに○をつけてください。

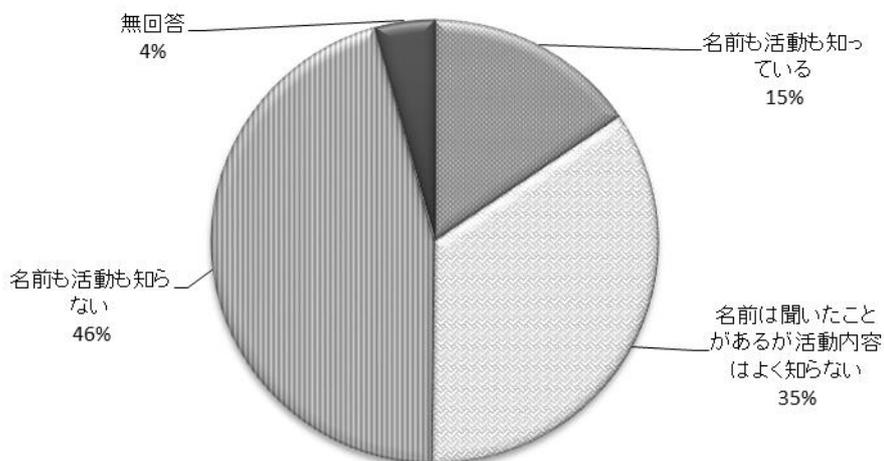
- | |
|--------------------------|
| ①名前も活動内容も知っている |
| ②名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らない |
| ③名前も活動内容も知らない |

福祉会については、約半数の人が名前も活動内容も知らないと回答していたが、名前程度を知っている人は、約4分の1いた。

表 2 4 - 1 福祉会の認知度

名前も活動内容も知っている	133 (15%)
名前は聞いているが活動内容は知らない	298 (35%)
名前も活動内容も知らない	391 (46%)
無回答	37 (4%)
総計	859 (100%)

図 2 4 - 1 福祉会の認知度

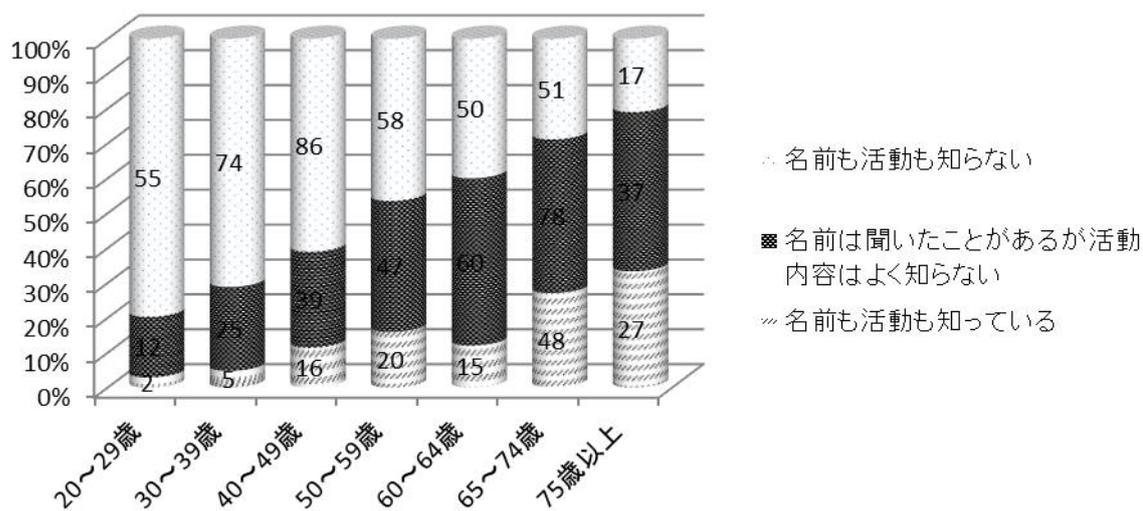


福祉会の認知度は、65歳以上の高齢者で高くなる。活動内容をよく知らなくても、高齢になるにしたがって福祉会の名前は多くの人が知っている。これに対して、20歳代から30歳代の人、さらに40歳代の人でも、名前も活動も知らない人が大多数を占めている。

表 2 4 - 2 年齢別福祉会の認知度

	20 ~ 29 歳	30 ~ 39 歳	40 ~ 49 歳	50 ~ 59 歳	60 ~ 64 歳	65 ~ 74 歳	75 歳 以上
名前も活動も知っている	2	5	16	20	15	48	27
名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らない	12	25	39	47	60	78	37
名前も活動も知らない	55	74	86	58	50	51	17
合計	69	104	141	125	125	177	81

図 2 4 - 2 年齢別福祉会の認知度



問 2 5. 介護や福祉サービスの利用相談

問 2 4 介護や福祉サービスの利用等に関する相談事は誰に相談しますか。

(○はあてはまるものすべて)

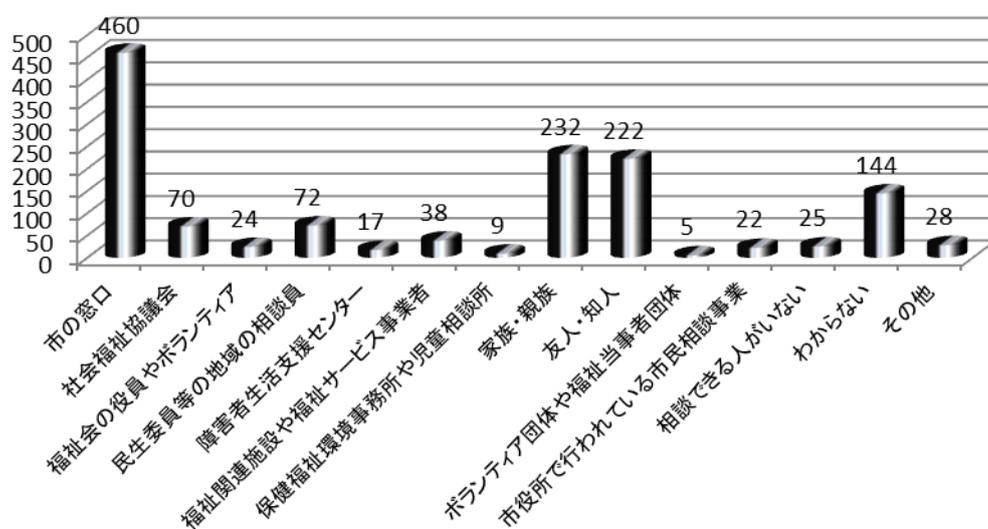
①市の窓口
②社会福祉協議会
③福祉会の役員やボランティア
④民生委員等の地域の相談員
⑤障害者生活支援センターや地域包括支援センター、子育て支援センター
⑥福祉関連施設や福祉サービス事業者
⑦保健福祉環境事務所や児童相談所
⑧家族・親族
⑨友人・知人
⑩ボランティア団体や福祉当事者団体
⑪市役所で行われている市民相談事業
⑫相談できる人がいない
⑬その他 ()

福祉サービスの相談先としては、市の窓口が圧倒的に多く、約半数の人が市の窓口と回答している。これは、問 2 3 の福祉情報の情報源が広報からということと一致している。しかし家族・親族や友人・知人が実際のサービス利用にあたっては頼るべき存在であるという結果も出ている。やや少ないが、民生委員も相談先として挙がっている。その一方で、「わからない」や相談できる人がいないと回答している人も少なからずいる。

表 2 5 - 1 福祉サービスの相談先

①市の窓口	460
②社会福祉協議会	70
③福祉会	24
④民生委員等	72
⑤障害者生活支援センター等	17
⑥福祉施設・介護事業者	38
⑦保健福祉環境事務所・児童相談所	9
⑧家族・親族	232
⑨友人・知人	222
⑩ボランティア団体・当事者団体	5
⑪市民相談事業	22
⑫相談できる人がいない	25
⑬わからない	144
⑭その他	28

図 2 5 - 1 福祉サービスの相談先



その他の内訳

その他	3
ネット上	1
病院の SW	1
今までのケアマネージャー	1
自分の職場	2
幼稚園	1
自分が民生委員	1
全て承知している	1
窓口が多く良く分からない	1
どうしようと長いこと思っている	1
今後行かなくてはならないがわからない	1
今は必要ない	10
相談したことがない	4

問 2 6 . 宗像市社会福祉協議会認知度

問 2 6 宗像市には、地域福祉を推進するために、福社会やボランティア活動の組織化や支援、福祉に関する広報活動、福祉教育活動等を行う「宗像市社会福祉協議会」があります。あなたは、「宗像市社会福祉協議会」をご存知ですか。あてはまるもの一つに○をつけてください。

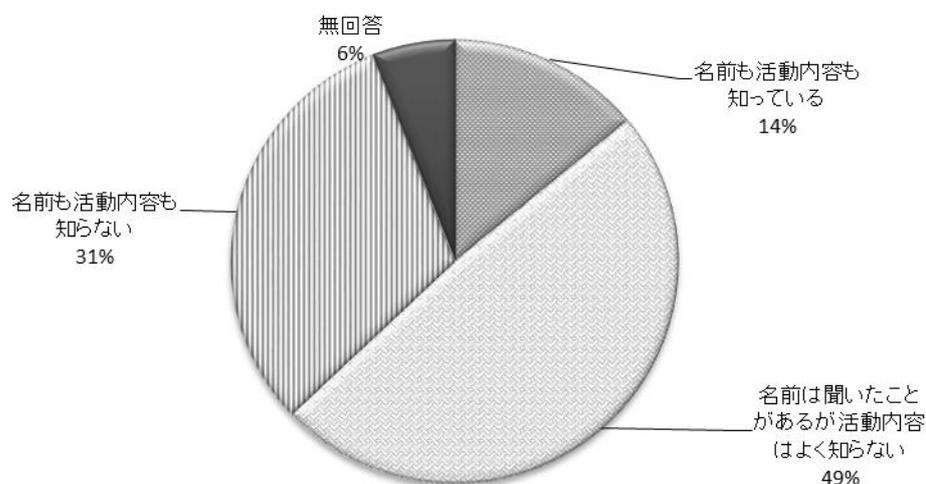
- ①名前も活動内容も知っている
- ②名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らない
- ③名前も活動内容も知らない

宗像市社会福祉協議会については、約半数の人が名前を聞いたことがあると回答していた。その一方で名前も活動も知らないという人が 3 分の 1 いた。過半数の人には認知されているといえる。

表 2 6 - 1 宗像市社会福祉協議会の認知度

名前も活動内容も知っている	121 (14%)
名前は聞いているが活動内容は知らない	420 (49%)
名前も活動内容も知らない	267 (31%)
無回答	51 (6%)
総計	859 (100%)

図 2 6 - 1 宗像市社会福祉協議会の認知度

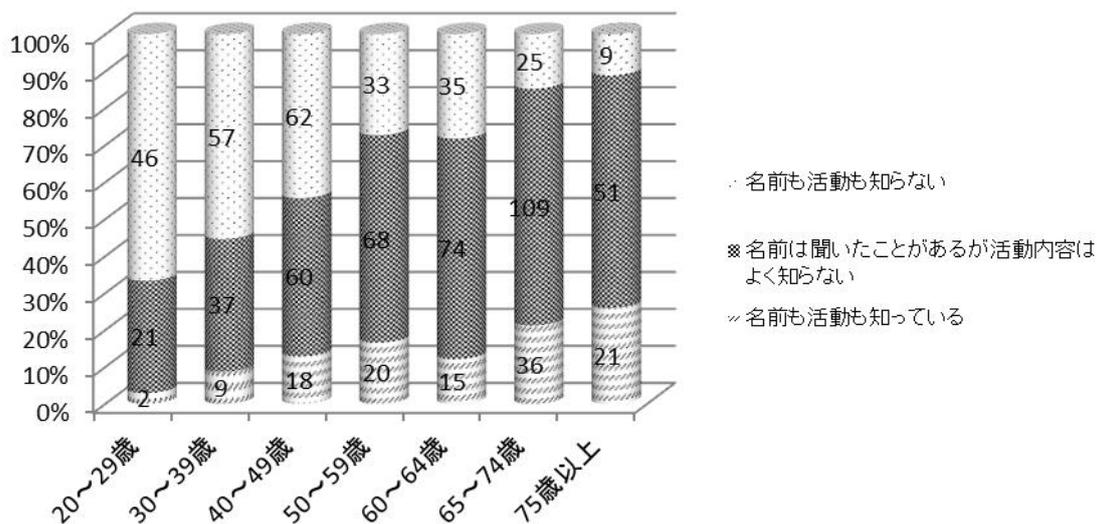


年齢層別に見ると、高齢になるにしたがって宗像市社会福祉協議会の認知度は上がる。名前も活動も知っている人は少ないが、全く知らない人は大きく減少する。20歳代の人約70パーセントの人は名前も活動も知らなかった。30歳代の人でも約60パーセントの人が名前も活動も知らなかった。

表 2 6 - 2 年齢別宗像市社会福祉協議会認知度

	20 ~ 29 歳	30 ~ 39 歳	40 ~ 49 歳	50 ~ 59 歳	60 ~ 64 歳	65 ~ 74 歳	75 歳 以上
名前も活動も知っている	2	9	18	20	15	36	21
名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らない	21	37	60	68	74	109	51
名前も活動も知らない	46	57	62	33	35	25	9
合計	69	103	140	121	124	170	81

図 2 6 - 2 年齢別宗像市社会福祉協議会認知度



問 27-1. 宗像市社会福祉協議会主催の活動の認知度

 問 27-1 あなたは、下記の「宗像市社会福祉協議会」が行っている活動をご存知ですか。「名前も活動内容も知っている」事業には◎を、「名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らない」事業には○をつけてください。

表 27-1 宗像市社会福祉協議会が行っている活動の認知度

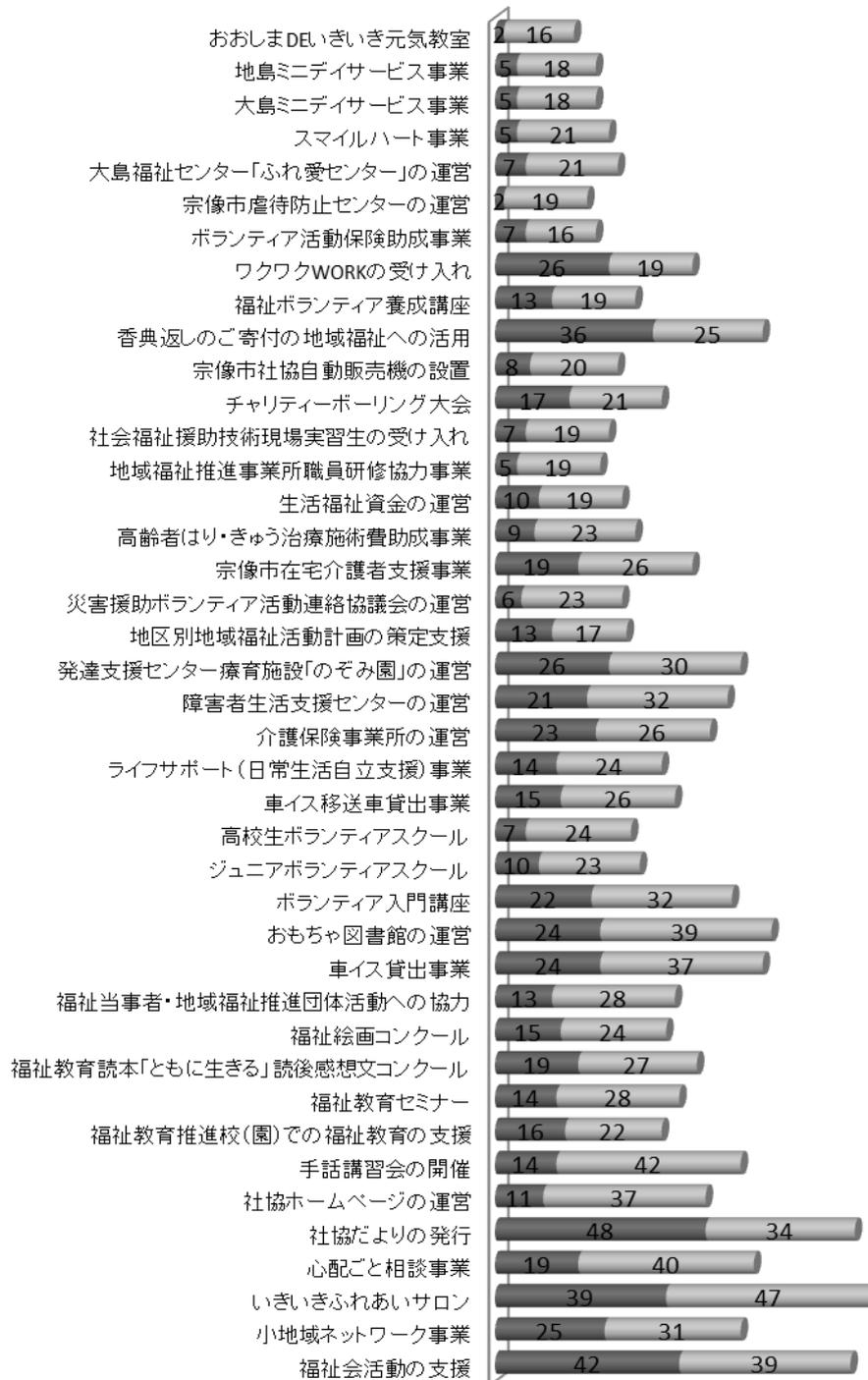
	名前も活動も知っている	名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らない	合計
福祉会活動の支援	42	39	81
小地域ネットワーク事業	25	31	56
いきいきふれあいサロン	39	47	86
心配ごと相談事業	19	40	59
社協だよりの発行	48	34	82
社協ホームページの運営	11	37	48
手話講習会の開催	14	42	56
福祉教育推進校（園）での福祉教育の支援	16	22	38
福祉教育セミナー	14	28	42
福祉教育読本「ともに生きる」読后感想文コンクール	19	27	46
福祉絵画コンクール	15	24	39
福祉当事者・地域福祉推進団体活動への協力	13	28	41
車イス貸出事業	24	37	61
おもちゃ図書館の運営	24	39	63
ボランティア入門講座	22	32	54
ジュニアボランティアスクール	10	23	33
高校生ボランティアスクール	7	24	31
車イス移送車貸出事業	15	26	41
ライフサポート（日常生活自立支援）事業	14	24	38
介護保険事業所の運営	23	26	49

障害者生活支援センターの運営	21	32	53
発達支援センター療育施設「のぞみ園」の運営	26	30	56
地区別地域福祉活動計画の策定支援	13	17	30
災害援助ボランティア活動連絡協議会の運営	6	23	29
宗像市在宅介護者支援事業	19	26	45
高齢者はり・きゅう治療施術費助成事業	9	23	32
生活福祉資金の運営	10	19	29
地域福祉推進事業所職員研修協力事業	5	19	24
社会福祉援助技術現場実習生の受け入れ	7	19	26
チャリティーボーリング大会	17	21	38
宗像市社協自動販売機の設置	8	20	28
香典返しのご寄付の地域福祉への活用	36	25	61
福祉ボランティア養成講座	13	19	32
ワクワク WORK の受け入れ	26	19	48
ボランティア活動保険助成事業	7	16	23
宗像市虐待防止センターの運営	2	19	22
大島福祉センター「ふれ愛センター」の運営	7	21	28
スマイルハート事業	5	21	26
大島ミニデイサービス事業	5	18	23
地島ミニデイサービス事業	5	18	23
おおしま DE いきいき元気教室	2	16	18

宗像市社会福祉協議会の活動では、名前も活動も知っているのは、「社協だよりの発行」であった。次いで、「いききふれあいサロン」、「福祉会の支援」などが上位に挙がっている。そのほか、「おもちゃ図書館の運営」「車いす貸出事業」「香典返しのご寄付の地域福祉への活用」もよく知られていた。

図 2 7 - 1 宗像市社会福祉協議会の活動認知度

■ 名前も活動も知っている ■ 名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らない



問 27. 宗像市社会福祉協議会に対しての意見

問 27 最後に、宗像市社会福祉協議会に対してご意見・ご提案がありましたらご自由にお書きください。

アンケート	<p>1. 今更、アンケートをとらないと活動方針を決められないのですか。アンケート内容は基本的事項ですよ！ 2. 用紙はせめて2つ折りにしてください。</p> <p>7月末で83歳 思考力低下のためチェックリスト記入も大変でした。</p> <p>このアンケートの目的が分からない。無作為に選んでいるはずがない。何がしたいのか理解できない。そんなことより市民税を下げろ！！</p> <p>質問項目が煩雑すぎる。誰もが答えられるように簡素に焦点化すべき。</p> <p>問 7-2 の選択肢は独立でないものがある。例えば親の移転に伴い生活環境が良いところに住宅を購入した場合、選択肢④⑦⑧を選ばなければならない。どれか一つを選ぶことは困難なので、ここを改善すればより有意な結果を得られると思う。問 22 で⑩を選んだら、問 22-1, 2, 3 は答えられないのでは？</p>
安全	街灯が少ない。県道でも街灯が無い所がある。
介護	<p>介護が必要になったときは社協を利用したいと思っています。</p> <p>介護認定を受けられない人に介護予防教室などリハビリなど、誰でも受けられる場所を増やしてほしい。</p>
高齢者	<p>交通の便のいいところに元気な高齢者や介護を必要とする人の移住空間（マンション形式）の建設を考えてほしい。今は交通不便で自活する人の為の高齢者マンションがない。</p> <p>高齢になり、車も乗れなくなったらビンや缶のゴミを出せなくなる。ビンや缶の回収も行なってほしい。廃品回収を地域で行ってるらしいが、仕事のため決まった時間に出せない!!宗像市は低収入の私には市民税が高すぎる。水道料金も高い!!いらない公共工事が多い!!ふれあいバスが私の住んでいる所で見事がない!!本当に市民の生活を考えるととは思えない。</p> <p>私の地区にも独居暮らしの方がたくさんいらっしゃいます。その方々の訪問等もっと活発になされないもののでしょうか？一回しゃべることがなく引きこもっている方もたくさんいらっしゃいます。地域性なのか、よそ者をなかなか受け入れてくれない所もあります。</p> <p>特になし。今後、高齢化が進みますので福祉の充実を願います。</p> <p>日常生活の支援・・・買い物その他の支援</p> <p>老人にしてあげるばかりでなく、老人も少しでも自分で努力する事（その人なり）の方法も考えてください。</p>

ゴミ	宗像市には「燃えないゴミ収集」がありません。現在は、分別や自分の出すゴミに対して意識・責任を持つことに。良い事だと思いますが、将来が不安です。地区での分別の場所は自宅よりも遠く、当番の当たった日にしか行きません。それも、分別ごみは持っていかず車で土・日に分別所に行きます。車に乗れなくなった時のことを思うと不安です)
	宗像市は車が無いので不便です。カンや燃えないゴミも捨てる場所がない。車がないから大事なことばかりだ。せめて福岡市のような不燃物ゴミ袋でも使ってほしい。ムリでしょうが。車なしのこの土地の生活はきつい。この先どうしたらいいかわからない。市になんとかしてもらえらる事があるのでしょうか？
自治会	自治会の活動には参加者が少ないので、もう少し事業のあり方を考えてほしい。
	組ごとのおつき合いがあまりなくて引越しされてたのもわからなかったなど。組内のおつき合いがこれから共に助け合っている様にしたらいいと思います。草とりの時だけ近所の情報が入るといのはさみしい事です。まずは困ったら近所どうし助け合いが出来ればと思います。
児童	子どもの公園を使用する人が少ない所がある。そういう所を老人の健康増進のための公園にも活用したらどうだろうか。
	子育て支援をもっと充実させるべき（地域清掃・住民マナーの向上・犯罪と事故防止など）
	少し前にプレーパークに参加させていただきました。子供たちものすごく楽しんでいました。ああいう企画や場所をもっと増やしてもらえると嬉しいです。あと市役所にベビーカー（もうあるのかもしれませんが見掛けた事がないので…）を置いて頂けるといいなと思います。
	低所得者はもちろん教育の面では塾など行かせられません。私立高校に行っている子がいますが、生活は苦しいです。どうか小、中を対象とした勉強会などがあると私達低所得者は助かります。
	老人介護ももちろん必要ですが、生活が困苦輪しているために十分な食事や教育が受けられていない子供たちがたくさんいます。これからの宗像市を支えていく大切な子供たちにももう少し目を向けていただきたいと思っています。
市への要望	ごみ袋が高い割にすぐ破れます。
	ご老人のためだけでなく、働いて子育てをしている 30～50 才への支援をもっとしてほしい。学習会や男女参画事業などの計画など参加したいです。市政懇談会昼だけでなく夜企画してほしい。
	はり・灸には助成があって、整骨院がダメなのが理解しがたい。
	もう少し低い視点で職員（？）の人たちは、とても不親切に感じるのですが（市の人たち全般に言える事ではないのでしょうか）

	<p>もう少し保健所の方との連絡がとれたらいいと思います。(定期的に電話・訪問などをしてくださったらなおいいです。)近隣間の人間関係などに困っていることや弱者に対して出来ることがまだあると思います。</p>
	<p>協議会に対しては色々和多すぎる。その前に税が安くなることをやるべきだと思う。私は市長の名前も知りません。企業誘致をすることを願う)</p>
	<p>子供の教育に力を入れてください。</p>
	<p>市が言う共同、共助とは、市と地元の信頼関係の上に成立するものである。地元だけに押し付けて市は何も動かないと思っている住民は多い。</p>
	<p>自治会加入の有無で行政サービスが差別されている(広報配布、ゴミなど)感じがする。同じ税を払っているからおかしいと思う。</p>
	<p>宗像市のバス お願いします。回数が欲しい。</p>
社協へのメッセージ	<p>10年間福祉委員としてボランティア活動をしました。社協の方のご親切、ご丁寧のご指導のもとに高齢者の皆様方と楽しいふれあいができております。今後ともよろしく願います。</p>
	<p>いつもご苦勞様です。地域に根ざした活動をこれからもよろしく願います。私は公務員ですが、地域の行事や活動ボランティア等に参加して地域への貢献をしたいと強く思っています。しかし仕事が(時間外の)多くとてもそういった時間的余裕がなく申し訳なく思っています。ぜひ勤務時間外は地域へ帰って地域の活動ができるよう、国・県が体制を整えるべきです。</p>
	<p>いつも大変な仕事をこなして感謝致しています。</p>
	<p>いつも大変にお世話になっております。これからも地域福祉の推進の為に頑張ってください。(職員の方の対応が素晴らしいです。)</p>
	<p>これから先、福祉の事業は高齢者が増えて大変になると思われます。協議会のみなさん頑張ってください。</p>
	<p>介護保険法の変更で大変になると思いますが頑張ってください。</p>
	<p>頑張ってください。</p>
	<p>協議会の活動には感謝の念で一杯です。</p>
	<p>今の温い社協運営活動の姿を、市民へもっとPRしたいものです。そのためには、市の協力が大事だと思います。</p>
	<p>社会福祉の活動は幅広いものだとは思っていましたが、いろいろな活動に手を差し伸べてあるのには驚きました。有難うございました</p>
	<p>宗像市で社会福祉協議会が色々な活動に従事されている皆様にはご苦勞をおかけしますが、がんばってください。</p>
	<p>宗像市発展の為、宜しく願ひ致します。</p>
	<p>大変よくやって下さってありがとうございます。</p>

	<p>沢山の事業があることがわかりました。今からお世話になると思うので活動を理解し、勉強したいと思います。</p> <p>当協議会の職員の方々大変お世話になっております。心から感謝申し上げます。</p> <p>日頃より社会福祉に対する活動に心より声援を送ります。</p>
社協への要望	<p>「市民後見センター」を作るべし。市民は人材豊富と思われるので（調停委員・参与員の経験者多数や弁護士 etc）社協がリードし、高齢化社会に備えるべし。他市に後れをとっている。</p> <p>公民館にプロジェクターを設置し、協議会の広報が常時見える様にして下さい。（ペーパーのみでは不可）</p> <p>今後、益々ニーズが高くなると思います。組織の基盤強化をして、柔軟に対応して行って欲しいです。</p> <p>社会福祉協議会、ネーミングが固い。愛称を考えては？色々活動していると分かった。活動報告はされているのだろうが、いまいち伝わっていない。母の介護をしていた時、タクシーチケットを利用した（障害者用）。手続きが面倒。母一人では行動できず誰かの支援が必要で、そのフォローは社協の方からアプローチできないか。私は会社を休んで母を連れて行った。</p> <p>社協が福祉に関する事業を行っているのは知っていましたが、細かく分けるとこれほど多くのものがあるのには驚きです。事業内容をもっと絞り込んでほしいと感じました。</p> <p>宗像市社会福祉協議会活動内容一覧表と相談手続きの方法を教えてください。</p> <p>地域的な圧力によって福祉が左右、片寄りがないようよく考えて実行してほしい。特にあまり物言わぬ静かな多数者をリサーチするのは大変難しいことですが、進めてください。</p> <p>内容をよく知らないので意見を、提案をどうすればいいのかよく判らない。</p>
障害者	<p>家族に発達障害者があり、支援センターを利用させて頂いておりますが、なかなか就労まで行かず、長い間自宅にひきこもりがちで困っています。</p> <p>自分は障害者です。社会の自主的に職場体験をしています。なかなか厳しいです。ぜひ、宗像市で福祉に力を入れてほしいです。※個人情報ももれています。なぜか、自分の事が他人に分かっているのか不思議です。よろしくお願いします)</p> <p>障害者用の駐車スペースに健常者が止めない工夫をお願いします。</p> <p>精神障害者への交通の補助 楽しみ方を知らない。ただ々病気との戦いで親が亡くなった後生活していく場所、ホームがほとんどない。親としては不安ばかり死ぬにも死ねない状態。</p> <p>町内会の廃品（資源ゴミ）に日に（月1回）何故、くすの木園だけがアルミ缶を集めるのですか？反対です。他の施設も平等にすべきでは？</p>
地域住民	<p>何事もわからない、知らないという人がいるので恥ずかしいと思わず市の窓口に関わらせる様にとと思います。</p>

認知度	あらためて、自分が社協の活動に対して無知であることに気づかされました。もう少し関心を持ちたいと思います。
	いろいろな事をされているのに知りませんでした。もう少しPRをしてほしいと思います。
	このアンケートに記入しながら宗像市社会福祉協議会について、知らないことを改めて反省し、問26の内容をコピーさせていただきました。アンケートが届き、よかったです)
	この調査のおかげで社会福祉協議会の事が良くわかりました。もっと先になったらいろいろ利用させていただけるので助かりました。情報をありがとうございました。
	ごめんなさい。広報に入ってくる新聞しか知りません。
	これだけの事業がされているのに地域に住んでいながら活動内容はおろか名前すら知らないのは、知る必要がいまの所ないからだろうけど、あまりにも知れ渡っていないのは問題だと思います。
	こんなにたくさんの活動があるとは知りませんでした。今からはしっかり広報を読み、頭に入れて、参加できるよう努力したいと思いました。
	こんなに多くの事業名称があることを初めて知った。
	どうせ、新婚・子育て・老人等が、主となって動いているだろうから、未婚、子どもなしの私にはかんけいないことだと思っています。そもそも社会福祉協議会とは何ですか？
	まだ福祉にピンときていない。(母の意見=問26に関して、「名前は知らないが、活動内容は知っている」です。現在の居住地から歩いて行ける店がなく、車の運転ができなくなると大変住みにくくなる。)
	何となく知ってはいたが、福祉協議会がされていると知らないことが多くあり、今回のアンケートを通して、さまざまな事業をされていることを知りました。介護など不安もありますので、相談窓口があるのは心強いです。
	活動内容がもっと多くの人に伝わるようになれば良いと思います。
	協議会の位置付け、市の組織のどこにあり、どのような運用が、誰の権限で行っているかと具体的な活動事例を伝えることをしてください。
	現在健康体ですので、存在を身近に感じないのかも…。
	今後は関心を持つよう努めたいと思います。
	市役所の窓口と社協の窓口は違うのですか。直接行って相談できるのですか。多くの活動をされていることに驚きました。
私をはじめ多くの方が活動内容を知らないのです市報をはじめいろんな手法で内容と活動を積極的にアピールしてほしい。	
社会福祉協議会が何なのかよくわからない。	
社会福祉協議会の活動はほとんど知らなかった。ボランティアをしてみたいと思ってい	

	<p>ますが、継続的に出来るか、大きな任務をこなせるかなかなか入口に辿りつかない。友人からこんなささいなボランティアがあるときく事があり、ボランティアの種々を広報などで知らせて！</p>
	<p>社会福祉法人が何を行っているか知らないが、ムダな事、むりはしない様にして欲しい。</p>
	<p>少しは聞くのですけどないようがはっきりしない事ばかり。年だからでせうネ</p>
	<p>詳しいことは知らないことだらけです！</p>
	<p>全く知りませんので、具体的に PR して下さい。</p>
	<p>知らない事が多くあることに気がきました。まずは、活動を幅広く知って頂き、協力参加して頂けるよう努力して下さい。幅広く知って頂くためにはどうすれば良いか、今までのやり方と同じだと思えます。知らなければ税金の無駄使いです。活動に参加して頂けるよう宜しくお願いします。</p>
	<p>特に利用することが無く、今後利用する事、多々ある様に感じる為、詳しく知りたい。</p>
	<p>福祉に関する事業が 40 以上もあるのに知らなかった。もう少し市としても表に出していけばいいかな。</p>
	<p>福祉を必要とすることがなかったため関心がなかった。</p>
	<p>問 26-1 にある活動のいくつか（10・11・13・14・34）は名前を聞いたことがあったが宗像市社会福祉協議会の活動とは知らなかった。更にアピールすると知っている人は増えると思う）</p>
	<p>問 26 に関しては、名前も活動内容も知りません。</p>
	<p>問 26 は事業の名称、内容を読めば想像できますが、“よく知っている”とは言えないので「○」です。</p>
ボランティア	<p>何らかの協力、ボランティア、少しでも協力できる人の登録。シルバー&シニアでも多くの資格、経験を持つ人がいます。うまく活用してください。例 非常用設備の定期点検等、リタイア組でできる。</p>
民生委員	<p>もう少し民生委員などが、地域の相談役になってほしい。家に来たことがない。</p>
	<p>民生委員さんは個人の情報を守っていると信用していいですか、不安なことを聞くことがあります。</p>
その他	<p>とくにない。自分と家族で何とかして生活している。</p>
	<p>どこからが福祉なのかよくわからない・・・</p>
	<p>現在体調不良のため、一時有料老人ホームにお世話になっております。</p>
	<p>今のところ特にありません。</p>
	<p>自助努力したいと思います。</p>
	<p>宗像市はコミセン活動の延長上に各コミセンは地区活動の延長上にある。つまり、すべては先づ元気で明るい地域づくりから始まるべきだ！！時々入院ほぼ在宅に向かって・・・。</p>

	<p>親の介護をしている時は、充実していました。亡くなって3~4年。両親の通りになるの でしょう……。今は花作り、絵手紙を楽しんでいます。 ※お仕事御苦労様です。</p>
	<p>税金のむだ使い。</p>
	<p>全体的に個人主義が強いと感じる。ベッドタウン化の弊害では？バイクのスピード違反 が多すぎる。山ばかりなので街路樹は必要ない。</p>
	<p>役人が自画自賛な事業ばかり、お節介のやきすぎ、民間企業で働く人々のことを考えて、 同等の仕事をする組織を作り再出発せよ！</p>
	<p>老人介護と、子育て支援が一番重要と思っています。</p>

第Ⅲ部 考察

1. 今後の居留意向

87 パーセントの人が今後も宗像市に住み続けるつもりである。

5年前に行われた前回調査と同様、今回、調査対象となった宗像市の住民は、長期居住者である。5分の1（21パーセント）が、40年以上市内で暮らしている住民であり、これに30年以上40年未満の住民（21パーセント）を加えると、約4割が30年以上宗像市で生活している。さらに20年以上の居住歴を持つ住民という枠でまとめると、約3分の2（67パーセント）の住民がその中に入る。生まれた時から宗像市に居住している人もいるが、1960年代から開発されてきた住宅団地に住宅を購入したことにより移り住んできた人々が多い。

実際、問7の回答では、回答者の83パーセントが、他地域での生活経験があると回答しており、問7-2に見られる転入理由のトップは、住宅購入（37パーセント）である。次いで、結婚で転入した人が17パーセントとなっている。これらの人々が宗像市に移り住む以前に暮らしていた地域は、問7-1の回答によれば、北九州市が26パーセント、福岡市が23パーセントである。すなわち、福岡県内の2大都市への通勤圏で比較的安価で住宅が購入できるという宗像市の特徴をよく表している。

住居の形態から見ると、問5の回答にあるように、もともと宗像市にいた住民を含めて、回答者の住宅は、80パーセントが一戸建て持家である。圧倒的多数の人々が定住型のライフスタイルであるといえ、問8の回答にあるように、今後も宗像市に住み続けたいと考えている人が57パーセント、なるべく住み続けたいと考える人が30パーセント、合わせて87パーセントの人々がこのまま住み続ける意向を持っている。

ただし、住み続けるという回答が、宗像市の生活条件が積極的に評価されているからと単純に評価を決定することはできない。回答者の年齢構成等を見ると、比較的高齢の方が多いので、多少住みづらくなっているところがあっても、他市に移住を決意するほどではないという、消極的判断も働いたことが考えられる。

一戸建て住宅は、集合住宅と比較して転売が困難であること、新たな住宅ローンを抱える収入がないこと、新しい土地や人間関係に適応することが高齢になると困難であることなどが移住に伴うリスクであり、それらと現在の生活を比較した場合に、現状維持がよいと判断している場合がある。こうしたことは、問8-1で移住を希望する人が、不便、公共サービスの未整備とその理由を述べていることから想像できる。

比較的少数であるが、買い物の困難や不安を訴えている人が56人いる。自家用車を持たない世帯や、運転できない高齢者は、日常の買い物が困難となっており、そのあたりが、住み続けられるかどうか、という不安になっていると思われる。そこで、今後の地域福祉を考えるにあたっては、高齢者や障害者の買い物や通院などの利便性の確保を行うこと、地域の見守り活動やサロン活動の拠点を整備することを検討する必要がある。

2. 家族の姿

91 パーセントの人が核家族で暮らしている。

半数以上が高齢者のいる世帯である。

問 9 の世帯類型から見ると、二世帯同居（親と子）の世帯が約半数（52 パーセント）あり、これに夫婦のみの世帯 32 パーセント、一人暮らし世帯 7 パーセントを合わせると、核家族世帯は全体の 91 パーセントにのぼる。その内訳を見ると、一人暮らしでは、高齢者の一人暮らしがそれ以外の一人暮らしをやや上回っているが、夫婦のみ世帯では 3 分の 2 が高齢者のいる世帯である。二世帯同居では、子育て中の二世帯世帯（276 件）と、高齢者の見守りや介護をしている二世帯世帯（158 件）に分かれる。

子育て中の二世帯世帯・三世帯世帯を見ると、約半数が子ども 2 人の世帯である。次いで子ども 1 人の世帯が 35 パーセントとなっている。子どもは、就学前から小学生までの幼い子どものいる世帯と、中学生以上の子どもの比較的年齢層の高い子どものいる世帯に分かれる。就学前の子どもの数も少なくはないが、中高生のみ世帯も多い。

介護の問題は、問 11 の回答に見られるように、全体ではまだ要介護の状態になっている人が少なく、80 パーセントの回答者が「要介護の人はいない」と回答している。しかし、住民が高齢化しつつあるので、老後への不安がかなりある。問 13-1 を見ると、自分の老後に不安を抱いている人は 286 人（33 パーセント）、将来的な家族の介護に不安を抱いている人は 183 人（21 パーセント）いる。

家族で気になる点は、高齢で介護の必要な親を中高年の子ども世代が介護している場合である。介護者の代わりがない状況で、介護者の病気等が生じると介護の継続が難しくなる。また、現在介護を行っている子ども世代が今後高齢になっていくので、その場合には介護を行う家族が同居していない状況が生じる。地域福祉として今後整備していくべきことは、緊急事態への対応として地域の助け合い、声のかけあい等の関係作り、緊急時の連絡先（家族の情報）を民生委員に伝えておく、市民後見人の活用などのソフト面の整備が必要であろう。また実際に家庭介護を行っているところでは、ケアマネージャーなどの専門職と民生委員との協力関係も必要になるので、地域包括ケアの体制づくりの中で専門職と地域の協力者との交流の促進が行われることが望まれる。

さらに、特に認知症の家族を介護している家族介護者への情報提供やレスパイト（休養）も必要になるだろう。また福祉環境の整備として、子どもから大人も含めて、認知症についての知識の普及、適切な対応の仕方についての教育を積極的に行い、認知症になっても安心な町づくりが必要になってくるだろう。

3. 職業、生計維持の方法

年金生活者が多い。

それ以外の生計中心者の職業は、会社員や公務員である。

回答者の職業を見ると、問4の回答にあるように42パーセントの人が無職である。これは、高齢者が多いため、年金生活者が多くなっていることがその背景にあると考えられる。問17の回答を見ると、無職の理由は、老齢や定年が圧倒的に多くなっている。

それ以外の職業では、会社員や公務員の常勤雇用の男性が生計中心者となっている。たとえば、問1の男女別回答者が半分ずつであることを反映して、問14の回答者が生計中心者であるか否かの質問に対して、生計中心者回答した人と生計中心者以外と回答した人は半分ずつとなっている。65歳未満で無職の人も、配偶者、あるいは父親が働いて生活を支えている。問4-1と問14-2を見ると、生計中心者の職業は、会社員・公務員が多く、常勤の勤労収入が生計を支える世帯が多いことがわかる。

宗像市は、福岡、北九州の二大都市への通勤が便利なベッドタウンとして発展してきたが、現状でも、約4割の人が福岡市や北九州市およびその周辺に通勤している。福岡市や北九州市に通勤している人の半分は、JRを使って通勤している。それ以外の場所に通勤する場合には、交通事情から自家用車での通勤を選択せざるを得ない状況である。

問18の回答から見ると、現在のところ、生計中心者は「とても健康」が20パーセント、「まあまあ健康」が58パーセントで、合わせて8割の人が健康状態は良好である。常勤雇用者の世帯では、生計中心者の健康が世帯の生計に直結するだけに、生計中心者が健康で働ける状態であることが世帯の生活にとって最も重要なことである。ただし、「まあまあ健康」と回答している人が多いので、それが次の不安につながっている。

今後は、年金生活者がさらに多くなっていき、常勤雇用者の世帯が減少していくことが予想される。年金生活になると、収入が減少するため、消費行動も限定的になるほか、預貯金や住宅老朽化への不安が出てくる。問13-1の回答の中にも、住宅老朽化への不安や収入不足への不安を挙げる人が少なくない。こうしたことから、医療費や介護費用の支出抑制のためにも、健康づくり活動を地域で検討する必要もあろう。

4. 不安・困りごと

自分の老後が一番心配である。

収入の減少を心配している。。

問 13 の回答を見ると、困りごとや不安があると回答した人は、全体の 58 パーセントで、過半数の人が何らかの生活上の困難や不安を抱えている。その内容は、病気や介護と経済的不安（収入不足や支出増）が圧倒的である。

問 13-1 の回答を見ると、最も不安に思っていることは、「自分の老後」のこと（286 人、33 パーセント）であった。高齢になるにしたがって、病気の時や介護が必要となった時に、誰に面倒を見てもらうか、医療や介護のサービスが十分に受けられるのか、その負担を自分の収入や預貯金で賄えるのか、といった不安があるものと思われる。また「将来の介護」への不安を挙げている人も 183 人おり、現在介護が必要でなくても（要介護者のいない家庭が 80 パーセントである）、今後、家族に介護が必要な状況が訪れることを予測し、そのときに対処できるのかということに不安に思っている人が多い。

次いで、家族の病気・事故（149 人）が不安や困りごとに挙がっている。生計中心者が病気や事故に遭った場合には、収入が減少したり、支出が増加したりして、生活費に困る状態が生じる。生計中心者でも、それ以外の家族が病気になった場合でも、少人数の家族が多いため、看護や介護の負担に耐えられるかどうかの問題となる。先に見たように、問 9 の回答から、宗像市では、核家族が圧倒的に多い（91 パーセント）ため、同居家族のみで看護や介護を行うことが困難である。

そのほか、昨今の経済事情を反映して、経済的不安や困難が回答に現れている。収入不足を挙げる人が 171 人、預貯金ができない状況であることを訴える人が 168 人いた。全体的に生活が苦しい、または余裕がない状態であることが出ている。さらに、子育て世代では、子どもの教育費の捻出が困難であることも窺える。高齢世帯では、年金生活に入って生活が苦しくなっていることに加え、住宅の老朽化もあがっており、166 人が不安・困難の内容に挙げている。今後、住み続けるためには何らかの補修や建て替えの必要が予測され、その負担が年金生活者にできるか、という問題を感じていることも見えてくる。

なお、社会福祉協議会の事業や活動の認知度からみて、社会福祉協議会が窓口になっている生活福祉資金の貸し付けなどの低所得者向けの制度の周知が十分にされていない様子が窺える。低所得者は、社会関係も狭まりがちであり、情報が行き渡らない傾向もある。したがって低所得者をサポートする制度についての情報をどのような方法で行き渡らせるのか、検討する必要がある。

5. 地域の人々のつながり

高齢者では親しい間柄の人がやや多くなる。

助け合いの経験が不足しており、市や県に頼る気持ちが強い。

問 19 の回答から、近所とのつきあいの程度は、困った場合に助け合う親しい間柄の人がいると回答した人が 3 割いる一方で、立ち話程度も同様に 3 割であった。次いで挨拶をする程度の人ならいるが 2 割あった。ほとんどない、全くないという回答も少数ながらあった。この違いは、個人の考え方によって近所づきあいの程度が変わるためと考えられる。年代別に近所づきあいの程度を見ると、親しく助け合う間柄についてはやや年齢が高い人に多く、立ち話をする程度の付き合いは、50 歳代に多い。あいさつをする程度の付き合いは、年齢が上がるに従って減っているため、年齢が高い人のほうが近所の人と親しい関係を持っているといえる。地域別にみると旧玄海地区のほうが親しいつながりの人がやや多いといえる。

助け合いの経験は、問 20 の回答を見ると、「したことがない」人が半数の 402 人であり、宗像市の住民全体ではあまり経験のない様子が窺える。手伝いをしたことがあっても、その手伝いの内容は、「声かけや安否確認」(151 人)、「話し相手」(137 人)など、孤独を慰める程度のものであり、家の中の困りごとの手伝いには近所の人には登場しない。

地域で何とかしなければならないこととしては、問 21 の回答に見られるように、単身高齢者や高齢者だけの世帯への支援が最も多く 371 人 (43 パーセント) が挙げている。次いで、防犯・防災活動 252 人、障がいがある人や介護が必要な人への支援 212 人、自宅で介護をしている家庭への支援 209 人、が挙げられている。ただし、これを何とかすべき人は、問 21-1 の回答にあるように、自分自身と考えている人はわずか 126 人で、市や県などの地方自治体が 310 人 (36 パーセント)、隣近所の人 173 人、自治会 158 人という状況であった。前回の調査よりもさらに市や県に頼る傾向が強まっている。

こうした状況は、問 22 の回答によっても推測できる。地域活動に「特に参加していない」人が 338 人 (39 パーセント) であり、参加している人でも、区 (自治会) 活動が 248 人 (29 パーセント) と一番多かった。地区の役職として割り当てられた仕事を引き受けているので、活動場所も地区の公民館が多い。一方、自主的な活動では、趣味や娯楽のクラブ活動 98 人が一番多く、次いでスポーツクラブ活動等 70 人が、目立っている。

また、問 22-2 の回答から、地域活動に参加した人からは、多くの人とかがかわることでもでき、新しい体験ができるとプラス評価がされている。したがって、忙しい中でも参加できる魅力ある活動づくりや参加しやすい体制づくり、高齢化しても活動が継続できるような支援を検討していくことが望まれる。さらに子どもの時から、地域のために何か参加する経験を積んでいくことも、「福祉の里づくり」として積極的に進めておく必要がある。

6. 社会資源の認知度

市の広報誌で情報を得ている人が多い。

相談が必要なときは、直接市の窓口に出向く。

問 23 の回答に見られるように、福祉に関する情報は、圧倒的多数（589 人）が市の広報誌「タウンプレス」（月 2 回発行）から得ている。コミュニティセンターの掲示物もよく活用されている（162 人）。友人・知人などからの口コミで情報を得ている人も少なくない（161 人）。

問 24 の回答を見ると、本人や家族の病気、障がいによってサービスを利用する必要ができた場合には、行政機関の窓口に出向いて個別に相談に行く人が 460 人（約半数）いた。また、家族・親族や友人・知人にも相談している。

相談先で、民生委員が 72 人と割合知られているのは、普段からの民生委員の活動が影響していると思われる。社会福祉協議会を挙げている人は、70 人であるため、一部の人は、社会福祉協議会に相談することも認知しているといえる。なお、選択肢にはなかったが、医療関係者やケアマネージャー等の専門職も身近な相談相手として捉えている様子が見られた。

ここで見落としてはならないのは、「相談できる人がいない」と回答している人が、数としては少ないが 40 人（5%）いるということである。特に、他の質問の回答から、「事情があって自治会に入っていないので広報誌も届いていない」という家庭があることがわかっている。それらの地域や親族の人間関係から疎外されている人々にいかに必要な情報を届けるかが今後の課題であろう。

7. 宗像市社会福祉協議会について

社会福祉協議会の名前は知られているが、活動内容については、あまり知られていない。

問 26 の回答を見ると、宗像市社会福祉協議会の「名前も活動も知っている」人は 121 人（14%）おり、「名前は知っているが活動は知らない」人が 420 人（48%）いた。これを合わせると、宗像市社会福祉協議会の認知度は、63 パーセントとなり、約 3 分の 2 の人が知っていることがわかる。

社協の活動の中で一番知られているのは、いきいきふれあいサロン 86 人、福祉会活動の支援 81 人、社協だよりの発行 82 人の 3 つである。高齢になるにしたがって、社協の認知度が上がっていき、名前も活動も知らないという人の割合が減少した。サロンや福祉会で社協との接点が多いことがその原因であると考えられる。

以外に知られていたのは、小地域ネットワーク事業である。単身高齢者の見守り・孤立化防止については、宗像市社会福祉協議会が長い間取り組んできた事業なので、周知度が高くでたと思われる。今後は、単身高齢者の見守りからさらに高齢者世帯や日中独居世帯の見守り、認知症高齢者のサポートなどに地域の見守り体制が進んでいくことが望まれる。

自由記述の回答を見ると、行政機関と社会福祉協議会の違いがわからない人が多く、社会福祉協議会の目的や活動を知らないために、見当はずれの意見も多かった。しかし、今回のアンケートにより社協の活動について理解を深めたので、もっと知りたいと考えた人もいるので、地域福祉を考えるきっかけとなったのではないかと思われる。

編集・発行年月日

平成 26 年 12 月 25 日

調査実施機関

宗像市社会福祉協議会

〒811-3437 福岡県宗像市久原 180 番地メイトム宗像内

調査分析・報告書作成責任者

福岡教育大学 西崎研究室（西崎 緑）

〒811-4192 福岡県宗像市赤間文教町 1-1